

第21回 腹部放射線研究会

The Japanese Society of Abdominal Radiology (JSAR)

プログラム

会 期：2007年6月1日(金)～2日(土)

会 場：フェニックス・シーガイア・リゾート
ワールドコンベンションセンター・サミット
〒880-8545 宮崎市山崎町浜山 TEL. 0985-21-1111
<http://www.seagaia.co.jp/>

当番世話人：田村 正三

宮崎大学医学部 病態解析医学講座 放射線医学分野
〒889-1692 宮崎郡清武町大字木原5200
TEL. 0985-85-2807 FAX. 0985-85-7172
<http://www.jsar.jp/>
E-mail: jsar21@med.miyazaki-u.ac.jp

第21回 腹部放射線研究会
当番世話人 田村正三
宮崎大学医学部 病態解析医学講座 放射線医学分野



この度、第21回腹部放射線研究会を6月1、2日の2日間にわたり、宮崎市のワールドコンベンションセンター・サミットで開催いたします。今回は松井 修教授が主宰される第1回 Asian Congress of Abdominal Radiology (ACAR 2007) との併催になります。

田舎での開催で演題が集まるか心配をしておりましたが、例年を上回る145あまりの演題をお寄せ頂き心より感謝申し上げます。腹部放射線研究会は数ある研究会の中でも最も成功している例で、基本的に1会場、2日間で、症例検討に病理医が参加を要請する、若い放射線科医が参加しやすくするため参加費はなるべく低く抑えるなどの特色があります。今回もこれらの要件を満たすべく努力いたしましたが、ACAR 2007との併催で演題数が増えたことなどで2会場にならざるを得ませんでした。本研究会の発展の過程としてやむを得ないことかと思えます。

ACAR 2007 には韓国をはじめオーストラリア、カナダ、中国、マレーシアおよびアメリカからの参加もあり、腹部放射線研究会の会場にも参加が予想されます。展示や口演は日本語で構いませんが、それらの方々にもある程度内容が分かるようにタイトルや結論を英語にするなどご配慮をお願いしました。

その他ランチョンセミナー、展示、クイズ展示などは従来の方法を踏襲しました。

会場のワールドコンベンションセンター・サミットはシーガイア・リゾートの中にありますので、勉強が済んだらグルメ、観光およびスポーツで宮崎を満喫して下さい。ゴルフ（フェニックスカントリークラブ）とサッカー（会場横の芝生グラウンド）は例年どおり準備いたします。

不慣れなためいろいろとご迷惑をおかけするかと思いますが、なにとぞご容赦下さい。それでは第21回腹部放射線研究会およびACAR 2007の盛会を祈りつつ、皆様のおいでをお待ちします。

宮崎県知事

東国原 英 夫



第21回腹部放射線研究会が開催されるにあたり、開催地を代表いたしまして、心からお祝い申し上げます。

また、近年、医療技術が急速に進歩発展する中で、本県においてこのような研究会が開催されますことは本県の医療水準、とりわけ放射線医学に関する技術水準の向上に寄与することとなり、誠に喜ばしいことと思っております。

さて、私は「宮崎をどげんかせんといかん」、「宮崎は生まれ変わらんといかん」という思いで、今年1月に知事に就任いたしまして、現在全力で職務に励んでいるところでありますが、いま、宮崎は、産業振興、防災対策、高齢化に伴う過疎化、そして医療・教育改革など取り組まなければならない様々な課題を抱えています。

特に、全国的に医師不足が大きな問題となっており、本県におきましても、医師の地域的な偏在や、小児科など特定診療科の医師不足のほか、新しい臨床研修制度が導入されたことによりまして、地域医療を支える医師の安定的な確保が、これまで以上に重要な課題となっております。

このため、県では、平成16年度から「県地域医療対策協議会」を設置し、関係機関による協議、検討を進めるとともに、昨年度から医学生を対象とした「医師修学資金貸与制度」を創設したほか、本県独自の「医師派遣システム」により本年4月からへき地医療機関への医師の派遣を開始したところです。

私は、この数年間が本県にとって大変重要な時期であり、山積する課題に正面から向き合い、本県が将来にわたって発展していけるよう、「県民総力戦による県づくり」を着実に進めるべきときであると考えております。

また、観光であれ、行政サービスであれ、本当の宮崎の素晴らしさを全国の皆様に知っていただき、日本中の人々に「宮崎のものが欲しい、宮崎を訪れたい」と言ってもらえるよう、宮崎のセールスマンとして全力を尽くして参りますので、この場をお借りしまして、皆様方の御理解と御支援をお願い申し上げます。

宮崎は、さんさんと降りそそぐ太陽、日南海岸に代表される青い空と青い海、山々が作り出す雄大な自然など、心と体が癒される素晴らしいところです。日向神話にまつわる名所や高千穂夜神楽などの伝統芸能、たくさんの観光スポットやリゾート施設が数多くあり、地鶏や焼酎などの美味しい食べ物もいっぱいあります。「日本一のおもてなし」で皆様を心から歓迎いたしますので、宮崎での御滞在をごゆっくりお楽しみください。

最後に、本研究会が実り多いものとなりますとともに、御出席の皆様方の御健勝、御多幸を祈念しまして、ごあいさついたします。

ご 案 内

1. 総合受付

- 1) 受付は、ワールドコンベンションセンターサミット 4F のロビーにて、6月1日(金)8:00より、2日(土)7:30より開始致します。
- 2) 参加費は6,000円です。参加費と引き換えに名札(兼出席証明書)をお受取下さい。

2. 一般演題

【一般口演】

1) 座 長

- ・ご担当頂くセッションの終了時間を厳守して下さい。一般口演の発表時間はすべて5分、討論時間は各口演につき3分(ディスカッション2分、コメント1分)とします。

2) 発表者

発表時間

- ・一般口演の発表時間は発表5分・討論時間3分です。時間厳守をお願い致します。

発表形式

- ・発表は日本語です。
- ・発表スライドは出来る限り英語で作成をお願い致します(ACAR2007 併催のため)。
日本語で作成される場合は、タイトル・序論・結論を必ず英語で作成下さい。
- ・液晶プロジェクタによる発表ですので、ご自身のPCもしくはデータをご持参下さい。スライドは使えません。
- ・舞台上に用意されたマウス、スイッチボックスを演者ご自身で操作して頂くリモートプレゼンテーションです。

受付

- ・PCの受付は、4F ホワイエにございます。発表の30分前に試写をお済ませ下さい。
(混雑が予想されますので、十分時間の余裕を持って、随時PC受付を行って頂けます様ご協力下さい。)
- ・PC受付での発表データの修正作業は、準備進行の妨げになりますのでご遠慮下さい。

発表に関する注意事項

- ・ご発表は、リモートプレゼンテーションを使用して頂きます。演台に液晶モニタとマウス、スイッチボックスが設置されておりますので、これら进行操作して下さい。
- ・PCは演台に置きませんので、発表者ツール等はご利用頂けません。予めご了承下さい。

< PC 本体を持参される方 >

- ・受付スタッフの指示に従って試写用モニタで確認をして下さい。
- ・モニタ出力端子が、Dsub-15ピン・3段以外はプロジェクタとの接続が出来ません。この形式以外の端子は接続用のアダプタが必要ですので必ずご持参下さい。また、バッテリー切れを防ぐため電源アダプタをご用意下さい。
- ・画面の解像度はXGA(1024×768)でお願いします。
- ・動画等がある場合には、予め受付スタッフにお伝え下さい。
- ・バックアップメディアも持参されることをお勧めします。

< データのみ持参される方 >

- ・メディアはCD-RまたはUSBフラッシュメモリのみ受け付けます。
- ・受付スタッフの指示に従ってデータをコピーして、試写をして下さい。
- ・研究会で用意しますパソコンのOSはWindows X PおよびMac OS Xです。アプリケーションはWindows版のPowerPoint2003またはPowerPoint 2000、Macintosh版のPowerPoint 2001またはPowerPoint・2004、PowerPoint X, keynote 1, 2004, keynote 2です(Mac版について互換性の関係で必ずOS Xで作成して下さい)。フォントはOS標準のもののみ対応致します。画面の解像度はXGA(1024×768)です。
- ・動画等がある場合には、予め受付スタッフにお伝え下さい。なお、動画データ等の参照ファイルは全て同じフォルダに入れて下さい(PPTへの貼付けリンクの確認をお願い致します)。

病理標本

- ・口演については病理学の先生にコメンテーターをお願いしております。病理コメンテーターの先生方よりご要望のあった演題については事前にプレパラートを送付頂く事になります。5月15日までにプレパラートを郵送頂きますようお願い致します。なお、お預かりしましたプレパラートは、口演が終わりましたら病理受付にて返却致しますのでお忘れのないようご注意下さい。

【ポスター展示】

ポスター展示については、一般展示、問題提示（クイズ）形式の両方で行います。展示の先生方は各自どちらの方法かをプログラムで確認のもと、作成をお願い致します。

1) 一般展示発表者

ポスター作成（8 ページのポスター作成見本を参考に作成下さい）

- ・ポスターを掲示するパネルの大きさはパネル上：横115cm×縦90cm、パネル下：横115cm×縦90cmで作成下さい。
- ・ポスターは日本語ですが、タイトル・サマリー・図解説は必ず英語で作成下さい（ACAR2007 併催のため）。

2) クイズ展示発表者

ポスター作成（9 ページのポスター作成見本を参考に作成下さい）

- ・ポスターを掲示するパネルの大きさはパネル上（出題）：横115cm×縦90cm、パネル下（解答解説）：横115cm×縦90cmで作成下さい。
- ・ポスターは日本語ですが、タイトル・サマリー・図解説は必ず英語で作成下さい（ACAR2007 併催のため）。
- ・出題部分には患者の年齢、性、簡単な主訴や経過、症例の画像のみを集めて作成して下さい。図の説明は検査法のみとし、所見の解説はつけないようお願い致します。矢印や矢頭はつけて頂いても構いません。
- ・解答解説部分には演題名に続いて、画像の説明、最終診断、症例の解説をお願い致します。出題部分と重複してお示し頂いても構いません。
- ・受付の際に 90 × 116cm の紙をお渡し致しますので、解答解説部分を隠すように貼って下さい。第2日目の8:00 に係りのものが紙を外して解答解説を公開致します。

ポスター提示について

- ・ポスター展示会場は4階蘭玉です。第1日目午前11:00までにポスター会場にて展示受付をお済ませ下さい。ポスターを掲示するパネルに演題番号がついていますので、会場に用意されたマジックテープをお使いになって掲示して下さい。
- ・展示に関して座長の設定や口演発表は行いません。
- ・全プログラム終了後、直ちにポスターの撤去をお願い致します。終了後30分経過しても残っているポスターは処分致しますので、ご了承下さい。

3) 参加者

- ・ポスター展示の閲覧時間は第1日目11:00～21:00、2日目8:00～17:30です。第2日目の8:00までクイズ展示ポスターの解答・解説は隠されています。
- ・会場には解答用紙を用意しておきますので、解答・解説が発表される前に皆様奮って解答をご記入下さい。なお、解答・解説は第2日目の8:00に公開されますので、それまでに会場に用意された箱に記名のうえご投函下さい。
- ・上位の方には当番世話人が心ばかりの賞品をご用意致します。

3. 幹事会

日 時：6月1日（金）7:00～7:40

場 所：シェラトン・グランデ・オーシャンリゾート 5階「マーズルーム」

4. 世話人会

日 時：6月1日（金）7:50～8:25

場 所：4階「クリスタルルーム」

5. 展示クイズ企画

日 時：6月1日（金）11:00～21:00

場 所：4階 ホワイエ

6. 打田賞受賞講演・表彰

日 時：6月1日（金）13:15～13:45

ご 案 内

7. 基調講演

基調講演 1 日 時：6月2日（土）8：00～8：30

座 長：杉村 宏先生 宮崎大学 放射線科

演 者：林 透先生 宮崎県立宮崎病院 病理科

『子宮体部の病理－腫瘍を中心に』

基調講演 2 日 時：6月2日（土）15：35～16：00

座 長：上野 恵子先生 東京女子医科大学東医療センター 放射線科

演 者：福嶋 敬宜先生 東京大学大学院医学系研究科 人体病理学・病理診断学分野

『膵管内腫瘍の病理 update』

8. 共催セミナー

ランチョンセミナー 1 GE 横河メディカルシステム（株）

日 時：6月1日（金）12：25～13：15

座 長：大友 邦先生 東京大学大学院医学系研究科 放射線医学講座

演 者：竹原 康雄先生 浜松医科大学 放射線科

『腹部 3T の最新情報』

ランチョンセミナー 2 （株）フィリップスエレクトロニクスジャパンメディカルシステムズ

日 時：6月2日（土）11：30～12：20

座 長：村上 卓道先生 近畿大学医学部 放射線医学教室

演 者：粟井 和夫先生 熊本大学大学院医学薬学研究部 画像診断解析学

講演 1 『64 列 CT による肝血流の評価』

演 者：吉満 研吾先生 九州大学大学院医学研究院 臨床放射線科

講演 2 『T2*map の慢性肝疾患への臨床応用』

スポンサードシンポジウム 1（ACAR Honorary Lecture-1）東芝メディカルシステムズ株式会社

日 時：6月1日（金）17：40～18：10

座 長：Dr. Hiromu Mori

演 者：Dr. Giles W. Stevenson

“Role of Radiology in population screening”

スポンサードシンポジウム 2（ACAR Honorary Lecture-2）シーメンス旭メディテック株式会社

日 時：6月2日（土）13：50～14：20

座 長：Dr. Osamu Matsui

演 者：Dr. Carlo Bartolozzi

“Carcinogenesis in the cirrhotic liver: the radio-pathological model”

9. 商業展示

株式会社 AZE、ピー・エス・ピー株式会社、横河電機株式会社、株式会社ドクターネット

--

4F

クイズ展示

ACAR2007受付

PC受付

第21回腹部放射線研究会受付

ホワイエ

商業展示

ポスター会場
(蘭玉)

A会場
(天瑞)

B会場
(樹葉)

研究会事務局
(アイボリー)

アンバー

世話人会会場
(クリスタル)

病理室
(マーブル)

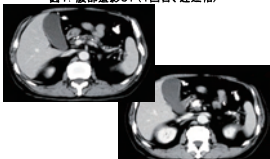
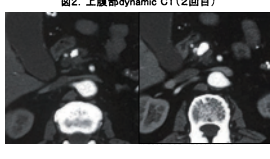
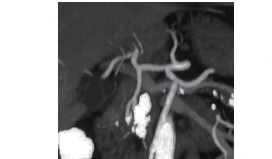
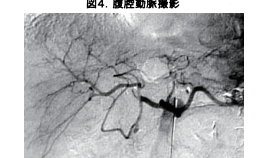
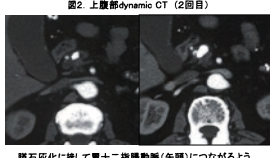
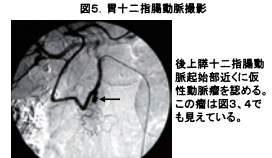
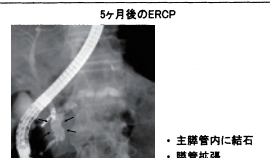


※このイラストは、実際尺縮とは異なります。

一般ポスターの見本（A4用紙に印刷してポスターを組んだ場合）

A4用紙を使った場合、上下の欄には最大3列×4行、計24枚のA4用紙が横置きで貼り付けられます。

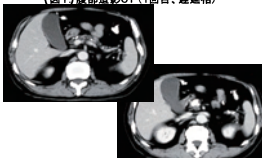
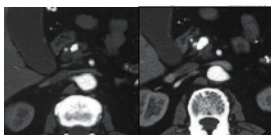
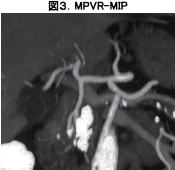
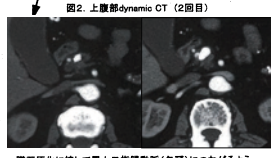
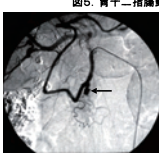
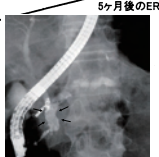
ポスターは日本語表記ですが、タイトル・サマリー・図解のみ必ず英語で作成して下さい

事務局で準備します		使用しません		135mm ↓ 60mm		
塞栓術で治療した Hemosuccus Pancreaticus の1症例 亀山 匠史・桐生 茂・南 学・赤羽 正章・吉岡 直紀・古賀 久雄・渡辺 慎・大友 邦 東京大学医学部附属病院放射線科		症例 68歳男性 - 主訴：下血、心窩部痛、嘔吐、冷汗 - 日本酒2合x52年 5月検診にて貧血指摘(Hb 8台)近医受診、7月頃下血が一度あり、9月に気分不快、悪心、嘔吐、下血があり、他院緊急入院。Hb5台、輸血、CT、US行っても出血源不明。11月に血便、ふらつきがあったため、当院受診。Hb 6.6と低下のため緊急入院。		入院後経過 - Hb 6.6 l/g/dL, GRP <0.3 mg/dl - 正球性貧血 (HbC 227万 l / μl, MCV 88.1) - amylase 158 IU/L, p-amylase 74.1 IU/L - 緊急上下部内視鏡 - 明らかな出血源なく、十二指腸のsecond portion にのみ血液付着 - CT（一回目）：慢性膵炎指摘、脾臓部に石灰化 - 小腸造影 - 異常なし - HSA出血シンチ - 異常なし - 輸血(MAP 2Ux3回)		900mm
図1 腹部造影CT(1回目、遅延相) 		図2 上腹部dynamic CT(2回目) 		図3. MPVR-MIP 		900mm
図4. 腹腔動脈造影 		図2 上腹部dynamic CT(2回目)  脾石灰化に接して胃十二指腸動脈(矢頭)につながるように動脈瘤(矢印)を認める。		図5. 胃十二指腸動脈造影  後上十二指腸動脈起始部近くに仮性動脈瘤を認める。この瘤は図3、4でも見えている。		900mm
塞栓術後の上腸間膜動脈造影にて、後上十二指腸動脈起始部の近くにも小さな仮性動脈瘤の残存を認めたが、膵炎の合併を恐れ、塞栓術は追加しなかった。 		5ヶ月後のERCP  - 主膵管内に結石 - 膵管拡張		Hemosuccus Pancreaticus - Sandblom P. (1970) が最初に報告 - 膵管からの大量の出血を指す - ほとんどのものが慢性膵炎に伴うもの - 仮性動脈瘤の膵管内破裂により膵管から出血 - その他に外傷性、富血性腫瘍の膵転移、迷走膵(異所性膵)などによるものも報告されている - 報告 65例(塞栓術による治療例 9例)		60mm
Hemosuccus Pancreaticus : 診断 - 出血は間欠的のため、動脈から膵管への出血が描出されるのはまれ。(Suter, 1995) - 内視鏡で主膵管からの出血をもって診断(Morse, 1983; Jacobs, 1992)。 - 内視鏡で不明なものは血管造影が有用(Shahani, 1994)。 - CTで慢性膵炎、動脈瘤。 3D-CTangiography も有用 (Malzfeldt, 1997)。		Hemosuccus Pancreaticus : 治療 - 手術 - 膵部分切除、脾摘、動脈の結紮 - 塞栓術 - 動脈瘤の近位・遠位の塞栓		Hemosuccus Pancreaticus - 慢性膵炎に仮性動脈瘤が合併する頻度は約10% (White, 1976; Hofer, 1987)。 - 慢性膵炎症例における消化管出血を見た場合には、この疾患を念頭に置いて詳細に造影する必要がある。		900mm
				80mm		
1160mm						

クイズポスターの見本（A4用紙に印刷してポスターを組んだ場合）

A4用紙を使った場合、上下の欄には最大3列×4行、計24枚のA4用紙が横置きで貼り付けられます。

ポスターは日本語表記ですが、タイトル・サマリー・図解のみ必ず英語で作成して下さい

事務局で準備します		使用しません		135mm		
図に番号をふっておくと解説の際に便利です（論文の様に）				60mm		
症例 68歳男性 - 主訴：下血、心窩部痛、嘔吐、冷汗 - 日本酒2合x52年 5月検診にて貧血指摘(Hb 8g/l)近医受診、7月頃下血が一度あり、9月に気分不快、悪心、嘔吐、下血があり、他院緊急入院、Hb5g/l、輸血、CT、US行っても出血源不明、11月に血便、ふらつきがあったため、当院受診、Hb 6.6と低下のため緊急入院。		図1 腹部造影CT (1回目、遅延相) 		図2 上腹部dynamic CT (2回目) 	画像所見の解説はここでは伏せて、どういう検査かの明示をお願い下さい (Key pointがわかりにくい場合は矢印などを付け、その解説は解答・解説欄で述べて下さい)	
図3 MPVR-MIP 		図4 腹腔動脈造影 				
この線を境に、解答・解説欄は下の行に、問題欄は上の行に詰めて下さい。		key imageは繰り返して提示していただいても構いません。				
この線を境に、解答・解説欄は下の行に、問題欄は上の行に詰めて下さい。		key imageは繰り返して提示していただいても構いません。				
タイトル・発表者・施設名、それに引き続きその後の経過		塞栓術で治療した Hemosuccus Pancreaticus の1症例 魚山 征史、桐生 茂、南 孝、赤羽 正東、吉岡 直紀、古賀 久雄、渡辺 慎、大友 邦 東京大学医学部附属病院放射線科		入院後経過 - Hb 6.6 g/dL, CRP 0.3 mg/d - 正球性貧血 (RBC 227万 /μl, MCV 88.1) - amylase 158 IU/L, p-amylase 74 IU/L - 緊急上下部内視鏡 - 明らかな出血源なく、十二指腸のsecond portion にのみ血液付着 - CT (1回目)：慢性膵炎指摘、膵頭部に石灰化 - 小腸造影 - 異常なし - HSA出血シンチ - 異常なし - 輸血 (MAP 2Ux3回)		図2 上腹部dynamic CT (2回目)  膵石灰化に接して胃十二指腸動脈(矢印)につながるように動脈瘤(矢印)を認める。
図5 胃十二指腸動脈造影  後上十二指腸動脈起始部近くに仮性動脈瘤を認める。この瘤は図3、4でも見えている。		最終診断 Hemosuccus Pancreaticus hemo=[g, ha/me] blood succus=[L] juice		塞栓術後の上腸間動脈造影にて、後下十二指腸動脈起始部の近くにも小さな仮性動脈瘤の残存を認めたが、膵炎の合併を恐れ、塞栓術は追加しなかった。 		
5ヶ月後のERCP  - 主膵管内に結石 - 膵管拡張		Hemosuccus Pancreaticus - Sandblom P. (1970) が最初に報告 - 膵管からの大量の出血を指す - ほとんどのものが慢性膵炎に伴うもの - 仮性動脈瘤の膵管内破裂により膵管から出血 - その他に外傷性、富血性腫瘍の膵転移、迷走膵 (異所性膵) などによるものも報告されている - 報告 65例 (塞栓術による治療例 9例)		Hemosuccus Pancreaticus : 診断 - 出血は間欠的なため、動脈から膵管への出血が描出されるのはまれ。(Suter, 1995) - 内視鏡で主膵管からの出血をもって診断 (Morse, 1985; Jacobs, 1992) - 内視鏡で不明なものは血管造影が有用 (Shahani, 1994) - CTで慢性膵炎、動脈瘤 3D-CTangiography も有用 (Malzfeldt, 1997)		
Hemosuccus Pancreaticus : 治療 - 手術 - 膵部分切除、膵摘、動脈の結紮 - 塞栓術 - 動脈瘤の近位・遠位の塞栓		Hemosuccus Pancreaticus - 慢性膵炎に仮性動脈瘤が合併する頻度は約10% (White, 1976; Hofer, 1987) - 慢性膵炎症例における消化管出血を見た場合には、この疾患を念頭に置いて詳細に検討する必要がある。		必要の場合はreferenceを加えて下さい		

プログラム：日程表

6/1 (金)			
	A会場 (天瑞)	B会場 (樹葉)	ポスター会場 (蘭玉)
7:00			
8:00			
	開会の辞 (8:30-8:40)		
9:00	肝臓1 (8:40-9:20)		
	肝臓2 (9:20-10:08)		
10:00	肝臓3・脾臓 (10:20-11:08)		
11:00	腎臓・泌尿器 (11:08-12:12)		
12:00	ランチョンセミナー1 GE横河メディカルシステム株 (12:25-13:15)		
13:00	打田賞受賞講演・表彰・ 事務局連絡 (13:15-14:00)		
14:00	コーヒーブレイク		
15:00	<i>ACAR Lecture Session-1</i> (<i>Genitourinary system</i>) (14:10-15:15)		ポスター閲覧 (11:00-21:00)
16:00	<i>ACAR SS-1</i> <i>Genitourinary Tract-1</i> (15:20-16:20)	後腹膜 (15:20-16:08)	
		消化管・腸間膜 (16:08-16:32)	
17:00	<i>ACAR SS-2</i> <i>Genitourinary Tract-2</i> (16:20-17:30)	コーヒーブレイク (16:32-17:40) (展示・クイズ形式展示を見る)	
18:00	<i>ACAR Honorary</i> <i>Lecture -1</i> (17:40-18:10)		
	<i>ACAR/JSAR</i> <i>Opening Ceremony</i> (18:10-18:40)		
19:00			
20:00			腹部放射線研究会・ ACAR 合同カクテルパーティ (18:40-21:00)

プログラム：日程表

6/2 (土)				
	A 会場 (天瑞)	B 会場 (樹葉)	ポスター会場 (蘭玉)	
7:00				7:00
8:00	基調講演 (8:00-8:30)	ACAR SS-3 GI (8:00-9:20)	クイズ形式展示 解答・解説の公開	8:00
9:00	子宮 (8:30-9:26)			9:00
10:00	卵巣 (9:40-10:28)	ACAR SS-4 Pancreas (9:30-10:40)		10:00
	クイズ展示優秀解答者発表	ACAR SS-5 Biliary Tract (10:40-11:20)		11:00
11:00	コーヒーブレイク (展示・クイズ形式展示を見る)			
12:00	ランチョンセミナー2 (株)フィリップスエレクトロニクス ジャパンメディカルシステムズ (11:30-12:20)		ポスター閲覧 (8:00-17:30)	12:00
13:00	ACAR Image Interpretation Session (12:30-13:45)			13:00
14:00	ACAR Honorary Lecture-2 (13:50-14:20)			14:00
15:00	ACAR Lecture Session-2 Liver neoplasms (14:20-15:40)			15:00
		基調講演 (15:35-16:00)		
16:00	ACAR SS-6 Liver (15:50-17:10)	膵臓1 (16:00-16:48)		16:00
17:00	ACAR SS-7 IVR (17:10-17:50)	膵臓2・胆道 (16:48-18:00)		17:00
18:00	ACAR展示部門優秀者 発表・表彰 閉会の辞			18:00
19:00				19:00
20:00				20:00

8:30～ 開会の辞 当番世話人 田村 正三(宮崎大学医学部 病態解析医学講座 放射線医学分野)

8:40～9:20 セッション1. 肝臓1(5題)

座 長 村上 卓道(近畿大学 放射線科)
コメンテーター 片岡 寛章(宮崎大学 腫瘍・再生病態学)

O-1 腹腔内出血で発症した肝 monotypic epithelioid angiomyolipoma の一例

橋本 知久¹⁾、前田 隆樹¹⁾、楠 直明¹⁾、東野 貴徳¹⁾、野間 恵之¹⁾、左野 明¹⁾、本庄 原²⁾、
小橋 陽一郎²⁾、栗根 雅章³⁾、松末 智³⁾
天理よろづ相談所病院 放射線部¹⁾、天理よろづ相談所病院 臨床病理部²⁾、
天理よろづ相談所病院 腹部一般外科³⁾

O-2 「コロナ濃染」様所見を呈し、肝細胞癌との鑑別が困難だった肝血管筋脂肪腫の一例

岡本 大佑¹⁾、西江 昭弘¹⁾、吉満 研吾¹⁾、入江 裕之¹⁾、田嶋 強¹⁾、平川 雅和¹⁾、石神 康生¹⁾、
牛島 泰宏¹⁾、本田 浩¹⁾、武富 紹信²⁾、西原 雄之介³⁾
九州大学大学院 医学研究院 臨床放射線科学¹⁾、九州大学大学院 医学研究院 消化器・総合外科学²⁾、
九州大学大学院 医学研究院 形態機能病理学³⁾

O-3 偽腺管形成が目立った肝細胞癌の一例

加藤 扶美¹⁾、神島 保¹⁾、作原 祐介¹⁾、尾松 徳彦¹⁾、小野寺 祐也¹⁾、長谷川 悠¹⁾、白土 博樹¹⁾、
久保田 佳奈子²⁾、伊藤 智雄²⁾
北海道大学病院 放射線科¹⁾、北海道大学病院 病理部²⁾

O-4 興味ある画像所見を呈し診断に苦慮した peliotic change を伴った高分化型 HCC の一例

佐々木 真弓¹⁾、穴村 聡²⁾、柿田 聡子²⁾、高屋 麻美子²⁾、松永 敬二²⁾、瀧川 政和³⁾、大森 智子³⁾、
矢内原 久⁴⁾
至誠会第二病院 放射線科¹⁾、北里大学東病院 放射線科²⁾、独立行政法人国立病院機構
相模原病院 放射線科³⁾、北里研究所病院 放射線科⁴⁾

O-5 HCC との鑑別が困難であった腫瘍状異所性副腎

馬場 麻衣子¹⁾、藤澤 英文¹⁾、薄井 庸孝¹⁾、鈴木 美奈子¹⁾、浮洲 龍太郎¹⁾、武中 泰樹¹⁾、
櫛橋 民生¹⁾、出口 義雄²⁾、春日井 尚²⁾、田中 淳一²⁾、塩川 章³⁾
昭和大学 横浜市北部病院 放射線科¹⁾、昭和大学 横浜市北部病院 消化器センター²⁾、
昭和大学 横浜市北部病院 病理科³⁾

9:20～10:08 セッション2. 肝臓2(6題)

座 長 上田 和彦(信州大学 放射線科)
コメンテーター 片岡 寛章(宮崎大学 腫瘍・再生病態学)

O-6 肝炎症性偽腫瘍の一例

井上 大¹⁾、川森 康博¹⁾、堀地 悌¹⁾、北川 清秀¹⁾、加藤 秀明²⁾、尾山 佳永子²⁾、西田 泰之³⁾、
増田 信二⁴⁾、常山 幸一⁵⁾、平野 誠⁶⁾
厚生連高岡病院 放射線科¹⁾、厚生連高岡病院 外科²⁾、厚生連高岡病院 消化器科³⁾、
厚生連高岡病院 病理科⁴⁾、富山大学 医学部 第一病理⁵⁾、平野クリニック⁶⁾

O-7 早期大腸癌 ESD 後増大した肝炎症性偽腫瘍の1例

廣橋 伸治¹⁾、成田 克浩²⁾、中路 太門²⁾、榊原 孝至²⁾
大阪暁明館病院 放射線科¹⁾、大阪暁明館病院 外科²⁾

O-8 糖原病Ⅰ型に合併した多発肝腺腫の1例

森田 佳明¹⁾、山田 隆之¹⁾、常陸 真¹⁾、松橋 俊夫¹⁾、佐藤 明弘¹⁾、奥本 忠之¹⁾、清治 和将¹⁾、
高瀬 圭¹⁾、高橋 昭喜¹⁾、森谷 卓也²⁾、石田 和之²⁾
東北大学 医学部 放射線診断科¹⁾、東北大学 医学部 病理部²⁾

O-9 成人で発見された Mesenchymal hamartoma of the liver の1例

阿保 齊¹⁾、杉盛 夏樹¹⁾、新村 理絵子¹⁾、出町 洋¹⁾、野田 八嗣²⁾、寺田 逸郎³⁾、清水 康一³⁾、
小西 孝司³⁾、内山 明央⁴⁾、三輪 淳夫⁴⁾
富山県立中央病院 放射線科¹⁾、同内科²⁾、同外科³⁾、同臨床病理科⁴⁾

O-10 腫瘍内および肝被膜下出血を契機に発見された肝腫瘍の一例

佐野 勝廣¹⁾、本杉 宇太郎¹⁾、市川 智章¹⁾、中島 寛人²⁾、荒木 力¹⁾、松田 政徳³⁾、中澤 匡男⁴⁾
山梨大学 医学部 放射線科¹⁾、山梨県立中央病院 放射線科²⁾、山梨大学 医学部 第一外科³⁾、
山梨大学 医学部 人体病理学⁴⁾

O-11 肝原発カルチノイドの一例

秋田 大宇¹⁾、佐藤 良則¹⁾、関 達夫¹⁾、清水 健²⁾
埼玉社会保険病院 放射線科¹⁾、埼玉社会保険病院 病理²⁾

10:20~11:08 セッション3. 肝臓3・脾臓(6題)

座 長 松岡 勇二郎(宮崎県立宮崎病院 放射線科)
コメンテーター 片岡 寛章(宮崎大学 腫瘍・再生病態学)

O-12 門脈腫瘍栓を示した胃癌再発の一例

松林(名本) 路花¹⁾、平賀 聖久¹⁾、境 昌宏¹⁾、安森 弘太郎¹⁾、村中 光¹⁾、西 秀博²⁾、桃崎征也³⁾
国立病院機構 九州医療センター 放射線科¹⁾、国立病院機構 九州医療センター 消化器内科²⁾、
国立病院機構 九州医療センター 病理³⁾

O-13 広範な門脈腫瘍栓を伴った肝内胆管癌の1例

古賀 誠¹⁾、橋本 学¹⁾、石山 公一¹⁾、西井 俊晶¹⁾、安田 格¹⁾、渡会 二郎¹⁾
秋田大学医学部附属病院 放射線科¹⁾

O-14 粘液産生の著明な肝内嚢胞性胆管腫瘍の一例

武智 恵¹⁾、兵頭 朋子¹⁾、津田 孝治¹⁾、平田 雅昭¹⁾、村上 正哲¹⁾、渡部 祐司²⁾、山本 祐司²⁾、
望月 輝一¹⁾、武田 英樹³⁾
愛媛大学 医学部 放射線科¹⁾、愛媛大学 医学部 第2外科²⁾、宇和島社会保険病院 放射線科³⁾

O-15 肝血管肉腫の一例

山本 琢水¹⁾、佐野 美香²⁾、本杉 宇太郎²⁾、市川 智章²⁾、荒木 力²⁾
山梨県立中央病院 放射線科¹⁾、山梨大学 医学部 放射線科²⁾

O-16 肝原発癌肉腫の一例

上蘭 玄¹⁾、前田 隆樹¹⁾、楠 直明¹⁾、東野 貴徳¹⁾、野間 恵之¹⁾、左野 明¹⁾、古山 裕章²⁾、
松末 智²⁾、藤田 久美³⁾、小橋 陽一郎³⁾
天理よろづ相談所病院 放射線部¹⁾、天理よろづ相談所病院 腹部一般外科²⁾
天理よろづ相談所病院 臨床病理部³⁾

O-17 脾真菌症の一例

沖野 由理子¹⁾、山田 康成²⁾、松本 俊郎²⁾、田上 秀一²⁾、本郷 哲央²⁾、森 宣²⁾
大分東部病院 放射線科¹⁾、大分大学 医学部 腫瘍病態制御講座(放射線医学)²⁾

11:08~12:12 セッション4. 腎臓・泌尿器(8題)

座 長 鳴海 善文(ハイメディッククリニックWEST 画像診断センター)
コメンテーター 河野 真司(原三信病院 臨床病理部)

O-18 比較的大きな嚢胞変性を伴う若年性腎腫瘍の1例

屋代 英樹¹⁾、陣崎 雅弘¹⁾、谷本 伸弘¹⁾、栗林 幸夫¹⁾
慶應義塾大学 医学部 放射線診断科¹⁾

O-19 Birt-Hogg-Dube 症候群に発生した多発腎細胞癌

青木 隆敏¹⁾、川波 哲¹⁾、三島 慶子¹⁾、興梠 征典¹⁾、松本 博臣²⁾、藤本 直浩²⁾、松本 哲朗²⁾、
松山 篤二³⁾
産業医科大学 医学部 放射線科¹⁾、産業医科大学 医学部 泌尿器科²⁾
産業医科大学 医学部 第一病理³⁾

O-20 腎盂尿管移行部に発生した成人型 Wilms 腫瘍の1例

玉井 賢¹⁾、小山 貴¹⁾、藤本 晃司¹⁾、岡所 広祐²⁾、西山 博之²⁾、桜井 孝規³⁾、三上 芳喜³⁾、
富樫 かおり¹⁾
京都大学医学部 放射線医学教室¹⁾、京都大学医学部 泌尿器外科²⁾、京大病院 病理部³⁾

O-21 好酸球性膀胱炎の1例

南 哲弥¹⁾、蒲田 敏文¹⁾、吉江 雄一¹⁾、眞田 順一郎¹⁾、川島 博子¹⁾、服部 由紀¹⁾、遠藤 珠生¹⁾、
南 麻紀子¹⁾、松井 修¹⁾、四柳 智嗣²⁾、成本 一隆²⁾、並木 幹夫²⁾、全陽³⁾
金沢大学 医学部 放射線科¹⁾、金沢大学 医学部 泌尿器科²⁾、金沢大学 医学部 病理部³⁾

O-22 骨盤底部に発生した paraganglioma の一例

上田 浩之¹⁾、伊藤 亨¹⁾、日野 恵¹⁾、岡田 卓也²⁾、川喜田 睦司²⁾、今井 幸弘³⁾
神戸市立中央市民病院 画像診断・放射線科¹⁾、神戸市立中央市民病院 泌尿器科²⁾、
神戸市立中央市民病院 臨床病理科³⁾

O-23 骨盤内肉腫様の所見を呈し、診断困難であった巨大血栓化静脈瘤の一例

加藤 勝也¹⁾、郷原 英夫¹⁾、清 哲朗¹⁾、田尻 展久¹⁾、井石 龍比古¹⁾、脇 隆博¹⁾、柳井 広之²⁾、
金澤 右¹⁾
岡山大学 医学部 放射線科¹⁾、岡山大学 医学部 病理²⁾

O-24 Gorlin 症候群の男児の陰嚢内に発生した莢膜細胞腫の1例

森澤 信子¹⁾、小山 貴¹⁾、玉井 賢¹⁾、藤本 晃司¹⁾、三上 芳喜^{1, 2)}、兼松 明弘³⁾、小川 修³⁾、
富樫 かおり¹⁾
京都大学 医学部 放射線医学教室¹⁾、京都大学医学部附属病院 病理部²⁾、
京都大学 医学部 泌尿器科³⁾

O-25 陰嚢マントル細胞リンパ腫の1例

竹内 充¹⁾、伊藤 雅人¹⁾、上岡 久人¹⁾、河合 辰哉¹⁾、鈴木 かおり¹⁾、伊藤 俊裕¹⁾、原 眞咲¹⁾、
芝本 雄太¹⁾
名古屋市立大学 医学部 放射線医学教室¹⁾

12:25~13:15 ランチオンセミナー1 GE横河メディカルシステム(株)
座 長 大友 邦先生(東京大学大学院医学系研究科 放射線医学講座)

「腹部 3T の最新情報」

竹原 康雄先生(浜松医科大学 放射線科)

13:15~13:45 打田賞受賞講演・表彰

表 彰：打田 日出夫
司 会：松井 修

【消化器部門】画像検査にて経時的变化を追えた肝蛭（かんてつ）症の1例

加藤さくら
大分大学医学部 腫瘍病態制御講座 放射線医学

【泌尿・生殖器部門】ポリープ状の形態を示した尿管子宮内膜症の一例

丸上永晃
奈良県立医科大学 中央内視鏡・超音波部

【展示部門】自己免疫性膵炎に多発腎腫瘍を合併したと考えられる1例

佐藤 修
明石市立市民病院 放射線科（現在、京都第一日赤病院）

13:45~14:00 事務局連絡

15:20~16:08 セッション5. 後腹膜(6題)

座 長 齋田 幸久(聖路加国際病院 放射線科)

O-26 造影 dynamicMRI が有用であった副腎血管腫の一例

山本 弥生¹⁾、鯨岡 結賀¹⁾、楊川 哲代¹⁾、松井 聡²⁾、高橋 武彦²⁾、佐々木 量矢²⁾、坂本 俊樹²⁾、
齋藤 節²⁾、岡邊 治男³⁾
筑波記念病院 放射線科¹⁾、筑波記念病院 外科²⁾、筑波記念病院 病理³⁾

O-27 高齢者に発症した副腎原発 neuroblastoma の1例

川上 剛¹⁾、山田 哲久¹⁾、原田 明典¹⁾、三廻部 肇¹⁾
東京労災病院 放射線科¹⁾

O-28 副腎 oncocytic tumor の一例

中島 諭¹⁾、後藤 公男¹⁾、黒田 昌志¹⁾、藤原 一央¹⁾、伊藤 剛¹⁾
国立病院機構京都医療センター 放射線科¹⁾

O-29 傍腎領域に発生し副腎由来が疑われたオンコサイトーマの一例

入澤 桃子¹⁾、佃 俊二¹⁾、西 直子¹⁾、小沢 栄人¹⁾、田中 淳司¹⁾、原田 博史²⁾、廣瀬 隆則²⁾
埼玉医大病院 放射線科¹⁾、埼玉医大病院 病理学教室²⁾

O-30 後腹膜由来の巨大 Hibernoma の1例

久保田 誠司¹⁾、伊藤 茂樹²⁾、館 靖¹⁾、深津 博¹⁾、長縄 慎二¹⁾、西尾 秀樹³⁾、榊原 綾子⁴⁾
名古屋大学 医学部 放射線科¹⁾、名古屋大学 医学部 保健学科²⁾、
名古屋大学 医学部 消化器外科³⁾、名古屋大学 医学部 病理⁴⁾

O-31 後腹膜由来と思われた線維肉腫の一例

新井谷 睦美¹⁾、上条 謙²⁾、岡本 恭子¹⁾、石塚 久美子¹⁾、中島 康雄¹⁾、朝倉 武士³⁾、池田 祐喜⁴⁾、
小池 淳樹⁵⁾
聖マリアンナ医科大学 放射線医学教室¹⁾、聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 放射線科²⁾、
聖マリアンナ医科大学 消化器一般外科³⁾、聖マリアンナ医科大学 肝臓内科⁴⁾、
聖マリアンナ医科大学 病理学⁵⁾

16:08~16:32 セッション6. 消化管・腸間膜・腹腔(3題)

座 長 赤羽 正章(東京大学 放射線科)

O-32 NSAIDs 腸炎の一例

笹井 信也¹⁾、井田 健太郎¹⁾、加地 充昌¹⁾、金澤 右²⁾
岡山画像診断センター¹⁾、岡山大学医学部放射線科²⁾

O-33 腸間膜に認められた多血性腫瘍の1例

金崎 周造¹⁾、坂下 陽子¹⁾、浜中 恭代¹⁾、辻 雅衛²⁾、佐藤 文平²⁾、濱洲 晋也²⁾、瀬古 安由美³⁾
康生会武田病院 放射線科¹⁾、康生会武田病院 外科²⁾、滋賀医科大学 放射線科³⁾

O-34 前腎傍腔から腸間膜に広範な線維化を来した原発不明腺癌の一例

塚原 嘉典¹⁾、黒住 昌弘¹⁾、山田 哲¹⁾、松下 剛¹⁾、川上 聡¹⁾、藤永 康成¹⁾、上田 和彦¹⁾、
角谷 眞澄¹⁾、羽場 真²⁾、村木 崇²⁾、上原 剛³⁾
信州大学 医学部 画像医学講座¹⁾、信州大学医学部附属病院 消化器内科²⁾
信州大学医学部附属病院 臨床検査部³⁾

8:00~8:30 基調講演1.

座 長 杉村 宏先生(宮崎大学 放射線科)

「子宮体部の病理一腫瘍を中心に」

林 透先生(宮崎県立宮崎病院 病理科)

8:30~9:26 セッション7. 子宮(7題)

座 長 杉村 宏(宮崎大学 放射線科)
コメンテーター 林 透(宮崎県立宮崎病院 病理科)

O-35 粘液腫様変性を呈した有茎性漿膜下子宮筋腫の一例

宮崎 俊幸¹⁾、鈴木 保子¹⁾、碓井 京子²⁾、松井 幹夫²⁾、徳永 達也²⁾
荒尾市民病院 放射線科¹⁾、荒尾市民病院 産婦人科²⁾

O-36 子宮脂肪平滑筋腫に子宮平滑筋肉腫を合併した一例

丸上 永晃¹⁾、廣橋 伸治²⁾、高濱 潤子³⁾、北野 悟³⁾、伊藤 高広³⁾、小野田 結³⁾、岡田 博司³⁾、
高橋 亜希³⁾、武輪 恵³⁾、吉川 公彦³⁾
奈良医大 中央内視鏡・超音波部¹⁾、大阪暁明館病院 放射線科²⁾、奈良医大 放射線科³⁾

O-37 子宮広間膜に発生した平滑筋肉腫の1例

土田 千賀¹⁾、岩崎 俊子¹⁾、竹内 譲²⁾、折坂 早苗²⁾、河原 栄³⁾
福井総合病院 放射線科¹⁾、福井総合病院 産婦人科²⁾、金沢大学 医学部 保健学科³⁾

O-38 子宮体癌、卵巣癌を合併した atypical polypoid adenomyoma の一例

五味 直哉¹⁾、田中 宏子¹⁾、藤原 良将¹⁾、遠藤 寛子¹⁾、山田 恵子¹⁾、松枝 清¹⁾、杉山 裕子²⁾、
古田 玲子³⁾、秋山 太³⁾、河野 敦¹⁾
癌研有明病院 画像診断部¹⁾、癌研有明病院 婦人科²⁾、癌研究会癌研究所 病理部³⁾

O-39 若年者に発生した子宮肉腫の一例

神吉 昭彦¹⁾、山下 武則¹⁾、東 浩樹¹⁾、江頭 直人¹⁾、渡部 茂¹⁾、玉田 勉¹⁾、福永 仁夫¹⁾、
今井 茂樹¹⁾
川崎医科大学 放射線科¹⁾

O-40 低悪性度子宮内膜間質肉腫の1例

遠藤 寛子¹⁾、五味 直哉¹⁾、井上 秀昭¹⁾、田中 宏子¹⁾、松枝 清¹⁾、河野 敦¹⁾、藤原 良将²⁾、
山田 恵子²⁾、川又 靖貴³⁾、滝澤 憲³⁾、秋山 太⁴⁾
癌研究会有明病院 画像診断部¹⁾、癌研究会有明病院 超音波検査部²⁾、癌研究会有明病院 婦人科³⁾、
癌研究所 病理部⁴⁾

O-41 女性骨盤原発の悪性リンパ腫のMR像の検討

杉原 英治¹⁾、鳴海 善文¹⁾、小山 光博¹⁾、村田 昌之¹⁾、柏木 伸夫¹⁾、伊藤 康志¹⁾、藤見 克之¹⁾、
西澤 光生¹⁾、上浦 祥司²⁾
大阪府立成人病センター 放射線診断科¹⁾、大阪府立成人病センター 婦人科²⁾

9:40~10:28 セッション8. 卵巣(6題)

座 長 松尾 義朋(六本木ヒルズクリニック 放射線科)
コメンテーター 林 透(宮崎県立宮崎病院 病理科)

O-42 Polypoid endometriosis の一例

竹内 麻由美¹⁾、松崎 健司¹⁾、西谷 弘¹⁾、古本 博孝²⁾、佐野 暢哉³⁾
徳島大学 医学部 放射線科¹⁾、徳島大学 医学部 産婦人科²⁾、徳島大学病院 病理部³⁾

O-43 卵巣原発カルチノイド腫瘍の一例

北井 里実¹⁾、長瀬 雅則¹⁾、成田 賢一¹⁾、落合 和彦²⁾、酒田 昭彦³⁾
東京慈恵会医科大学 医学部 放射線科¹⁾、東京慈恵会医科大学附属青戸病院 産婦人科²⁾、
東京慈恵会医科大学附属青戸病院 病理部³⁾

O-44 両側卵巣発生の悪性 Brenner 腫瘍の一例

海東 恵子¹⁾、野島 浩司¹⁾、角田 清志¹⁾、西嶋 博司¹⁾、野島 俊二²⁾
市立砺波総合病院 放射線科¹⁾、市立砺波総合病院 産婦人科²⁾

O-45 内膜症性嚢胞に発生した悪性腫瘍:明細胞腺癌と類内膜腺癌の合併例

佐藤 宏朗¹⁾、長谷川 市郎¹⁾、緒方 雄史¹⁾、成松 芳明¹⁾、木挽 貢慈²⁾、杉浦 仁³⁾
川崎市立川崎病院 放射線診断科¹⁾、川崎市立川崎病院 産婦人科²⁾、川崎市立川崎病院 検査科 病理³⁾

O-46 内膜症性嚢胞に発生した境界悪性混合上皮性腫瘍の一例

岡島 由佳¹⁾、田村 綾子²⁾、松尾 義朋¹⁾、不破 相勲¹⁾、齋藤 理恵³⁾、鈴木 高祐⁴⁾、清川 貴子⁵⁾、
齋田 幸久¹⁾
聖路加国際病院 放射線科¹⁾、お茶の水駿河台クリニック²⁾、聖路加国際病院 女性総合診療部³⁾、
聖路加国際病院 病理診断科⁴⁾、東京慈恵会医科大学 病理学講座⁵⁾

O-47 内膜症合併類内膜腺癌が両側卵巣と腹腔内に生じたと考えられた1症例

大須賀 香絵¹⁾、新本 弘¹⁾、陣崎 雅弘¹⁾、谷本 伸弘¹⁾、奥田 茂男¹⁾、屋代 英樹¹⁾、栗林 幸夫¹⁾、
富永 英一郎²⁾、仲村 勝²⁾、青木 大輔²⁾、向井 万起男³⁾
慶應義塾大学 医学部 放射線診断科¹⁾、慶應義塾大学 医学部 産婦人科²⁾、
慶應義塾大学 医学部 病理診断部³⁾

10:28~11:20 コーヒーブレイク

11:30~12:20 ランチオンセミナー2 (株)フィリップスエレクトロニクスジャパンメディカルシステムズ
座 長 村上 卓道先生(近畿大学医学部 放射線医学教室)

「64列CTによる肝血流の評価」

栗井 和夫先生(熊本大学大学院医学薬学研究部 画像診断解析学)

「T2*mapの慢性肝疾患への臨床応用」

吉満 研吾先生(九州大学大学院医学研究院 臨床放射線科)

15:35~16:00 基調講演2.

座 長 上野 恵子先生(東京女子医科大学東医療センター 放射線科)

「膵管内腫瘍の病理 update」

福嶋 敬宜先生(東京大学大学院医学系研究科 人体病理学・病理診断学分野)

16:00~16:48 セッション9. 膵臓1(6題)

座 長 上野 恵子(東京女子医科大学東医療センター 放射線科)
コメンテーター 福嶋 敬宜(東京大学 人体病理・病理診断学)

O-48 輪状膵に膵胆管合流異常を合併した1例

石垣 聡子¹⁾、伊藤 茂樹²⁾、鈴木 耕次郎¹⁾、太田 豊裕¹⁾、長縄 慎二¹⁾、竹田 伸³⁾、福原 理恵子⁴⁾、
酒井 美知子⁴⁾
名古屋大学 医学部 放射線科¹⁾、名古屋大学 医学部 保健学科²⁾、
名古屋大学 医学部 消化器外科³⁾、名古屋記念病院 放射線科⁴⁾

O-49 後腹膜線維症を伴った自己免疫性膵炎の一例

鈴木 一廣¹⁾、黒崎 喜久¹⁾、高瀬 優²⁾、森岡 研介³⁾
順天堂大学 医学部 放射線科¹⁾、順天堂大学 医学部 病理学²⁾、順天堂大学 医学部 肝胆膵外科³⁾

O-50 異所性骨形成を伴ったIPMNの1例

藤田 眞¹⁾、綾田 昌弘²⁾、左近 賢人³⁾、中川 須美子³⁾、小川 弘之⁴⁾
西宮市立中央病院 放射線科¹⁾、西宮市立中央病院 病理²⁾、西宮市立中央病院 外科³⁾、
西宮市立中央病院 内科⁴⁾

O-51 IPMCとinvasive ductal carcinomaの成分を有した膵尾部多房性腫瘍の1例

高田 延寿¹⁾、長沢 研一¹⁾、高橋 康二¹⁾、山田 有則¹⁾、平沼 初音¹⁾、今澤 雅子²⁾、徳差 良彦³⁾、
三代川 齊之³⁾
旭川医科大学 医学部 放射線医学講座¹⁾、旭川医科大学 医学部 病態代謝内科学分野²⁾、
旭川医科大学病院 病理部³⁾

O-52 術前診断が困難であった石灰化を伴った膵管内管状腺癌の一例

伊藤 康志¹⁾、村田 昌之¹⁾、鳴海 善文¹⁾、小山 光博¹⁾、藤見 克之¹⁾、杉原 英治¹⁾、柏木 伸夫¹⁾、
片岡 竜貴²⁾
大阪府立成人病センター 放射線診断科¹⁾、大阪府立成人病センター 臨床検査科病理²⁾

O-53 サルコイド様反応を伴った膵癌の一例

川上 聡¹⁾、柳澤 新¹⁾、山田 哲¹⁾、渡辺 智治¹⁾、黒住 昌弘¹⁾、平瀬 雄一¹⁾、藤永 康成¹⁾、
百瀬 充浩¹⁾、上田 和彦¹⁾、角谷 眞澄¹⁾、宮川 眞一²⁾、小林 聡²⁾、細田 和貴³⁾、太田 浩良³⁾、
小口 和浩⁴⁾
信州大学 医学部 画像医学講座¹⁾、信州大学 医学部 消化器外科²⁾、信州大学 医学部 中央検査部³⁾、
相澤病院 PET センター⁴⁾

16:48~18:00 セッション10. 膵臓2・胆道(9題)

座 長 入江 裕之(九州大学 放射線科)
コメンテーター 福嶋 敬宜(東京大学 人体病理・病理診断学)

O-54 膵 duct-islet cell carcinoma の1例

有蘭 茂樹¹⁾、広川 侑奨²⁾、前谷 洋爾¹⁾、磯田 裕義²⁾、小山 貴²⁾、川口 義弥³⁾、土井 隆一郎³⁾、
藤本 正数⁴⁾、桜井 孝規⁴⁾、富樫 かおり¹⁾
京都大学大学院 医学研究科 放射線医学講座 画像診断学・核医学¹⁾、
京都大学医学部附属病院 放射線部²⁾、京都大学医学部附属病院 肝胆膵・移植外科³⁾、
京都大学医学部附属病院 病理診断部⁴⁾

O-55 ASVS が有用であった insulinoma 術後の播種の一例

荒木 潤子¹⁾、野村 亜矢¹⁾、倉本 賢明¹⁾、島田 栄治¹⁾、川口 祐子¹⁾、藤川 あつ子¹⁾、古川 誠¹⁾、
平嶺 辰英²⁾
災害医療センター 放射線科¹⁾、災害医療センター 代謝・内分泌内科²⁾

O-56 漿液性嚢胞腺腫との鑑別が困難であった膵グルカゴノーマの1例

山本 亨¹⁾、米田 憲秀¹⁾、中田 一恵¹⁾、吉川 淳¹⁾、林 裕之²⁾、海崎 泰治³⁾、白崎 信二⁴⁾
福井県立病院 放射線科¹⁾、福井県立病院 外科²⁾、福井県立病院 臨床病理³⁾、公立丹南病院 外科⁴⁾

O-57 高度な線維化が見られ非典型的な画像所見を呈した悪性膵内分泌腫瘍の1例

牛島 泰宏¹⁾、吉満 研吾¹⁾、入江 裕之¹⁾、田嶋 強¹⁾、西江 昭弘¹⁾、平川 雅和¹⁾、石神 康生¹⁾、
岡本 大佑¹⁾、山口 幸二²⁾、西原 雄之介³⁾、本田 浩¹⁾
九州大学大学院医学研究院 臨床放射線科¹⁾、九州大学大学院医学研究院 臨床・腫瘍外科学²⁾、
九州大学大学院医学研究院 形態機能病理³⁾

O-58 膵管内に腫瘍塞栓を形成した悪性膵内分泌腫瘍の1例

長川 達哉¹⁾、須賀 俊博¹⁾、長谷川 貴²⁾、西野 茂夫²⁾、岡田 邦明³⁾、近藤 征文³⁾、後藤田 裕子⁴⁾、
村岡 俊二⁴⁾
札幌厚生病院 第2消化器科¹⁾、札幌厚生病院 放射線科²⁾、札幌厚生病院 外科³⁾、
札幌厚生病院 臨床病理科⁴⁾

O-59 非典型的な画像を示し膵頭部腫瘍と鑑別が困難であった paraganglioma の一例

郷原 英夫¹⁾、加藤 勝也¹⁾、赤木 史郎¹⁾、藤原 寛康¹⁾、三村 秀文¹⁾、松田 浩明²⁾、八木 孝仁²⁾、
金澤 右¹⁾
岡山大学 医学部 放射線科¹⁾、岡山大学 医学部 肝胆膵外科²⁾

O-60 造影 CT で胆道内に造影効果を認め、胆道出血を診断した一例

田之畑 瑞穂¹⁾、奥田 逸子¹⁾、古井 滋²⁾、小久保 宇¹⁾、古井 智子³⁾、奥田 近夫³⁾、竹内 和男³⁾
虎の門病院 放射線診断科¹⁾、帝京大学医学部附属病院 放射線科²⁾、虎の門病院 消化器科³⁾

O-61 遺残胆嚢管に生じた traumatic neuroma の一例

市橋 成夫¹⁾、渡邊 祐司¹⁾、奥村 明¹⁾、中西 正¹⁾、永山 雅子¹⁾、中野 覚¹⁾、天羽 賢樹¹⁾、
小田 一成¹⁾、石守 崇好¹⁾、結城 雅子¹⁾、牧 大介¹⁾、矢田 晋作¹⁾、中谷 航也¹⁾、吉田 理佳¹⁾、
吉村 通央¹⁾、百々 義廣¹⁾
倉敷中央病院 放射線科¹⁾

O-62 肝内胆管に局所的コレステロールクリстал沈着を認めた1例

鈴木 智大¹⁾、水沼 仁孝¹⁾、加藤 弘毅¹⁾、杉山 宗弘¹⁾、菅原 俊祐²⁾
大田原赤十字病院 放射線科¹⁾、岩手医科大学 放射線科²⁾

肝臓

P-01 充実成分を伴う肝嚢胞性腫瘍の2例

作原 祐介¹⁾、阿保 大介¹⁾、長谷川 悠¹⁾、藤間 憲幸¹⁾、加藤 扶美²⁾、中駄 邦博¹⁾、尾松 徳彦²⁾、
小野寺 祐也¹⁾、神島 保²⁾、真鍋 治¹⁾、西田 睦³⁾、増田 香織⁴⁾、佐藤 恵美⁴⁾、白土 博樹²⁾
北海道大学病院 放射線科¹⁾、北海道大学大学院医学研究科 病態情報学講座 放射線医学分野²⁾、
北海道大学病院 診療支援部 検査部³⁾、北海道大学病院 放射線部⁴⁾

P-02 出血壊死をきたした副肝葉の一例

永井 京子¹⁾、吉田 暢元¹⁾、佐藤 秀一¹⁾、林 征洋²⁾、石田 康男²⁾、幡谷 潔²⁾
横浜旭中央総合病院 放射線科¹⁾、横浜旭中央総合病院 外科²⁾

P-03 BEP 療法により縮小したと考えられた肝血管腫の1例

橋本 学¹⁾、石山 公一¹⁾、西井 俊晶¹⁾、安田 格¹⁾、古賀 誠¹⁾、渡会 二郎¹⁾
秋田大学 医学部 放射線科¹⁾

P-04 肝炎症性偽腫瘍の一例

辻 巖吾^{1, 2)}、池田 新²⁾、吉儀 淳¹⁾、森山 正浩²⁾、長堀 薫¹⁾、津浦 幸夫¹⁾
横須賀共済病院 放射線科¹⁾、島根大学 医学部 放射線科²⁾

P-05 特異な画像所見を呈した肝炎症性偽腫瘍の一例

萩原 章¹⁾、玉岡 紅一¹⁾、近藤 聖子¹⁾
市立伊丹病院 放射線科¹⁾

P-06 妊娠経過中に発見された巨大肝炎症性偽腫瘍の1例

北野 和美¹⁾、安藤 慎司¹⁾、湯浅 貢司¹⁾、児玉 光史¹⁾、安井 清¹⁾、原田 敦¹⁾、尾崎 信弘¹⁾、
長岡 三郎¹⁾
島根県立中央病院 放射線科¹⁾

P-07 PIVKA-II 高値を示したアルコール性過形成結節の一例

渡辺 佳明¹⁾、松浦 克彦¹⁾、秋元 達也¹⁾、田島 直¹⁾、高田 晃¹⁾、丹野 啓介¹⁾、牛丸 信也²⁾、
宮谷 博幸²⁾、田中 修¹⁾
自治医科大学附属大宮医療センター 放射線科¹⁾、自治医科大学附属大宮医療センター 消化器内科²⁾

P-08 肝細胞癌との鑑別が困難な過形成結節を有した生体肝移植レシピエントの一例

中矢 泰裕¹⁾、金 東石¹⁾、堀 雅敏¹⁾、大須賀 慶悟¹⁾、三上 恒治¹⁾、巽 光朗¹⁾、大西 裕満¹⁾、
前田 登¹⁾、東原 大樹¹⁾、友田 要¹⁾、中村 仁信¹⁾
大阪大学大学院医学系研究科 放射線統合医学講座 放射線医学講座¹⁾

P-09 薄厚造影 CT が術前診断に有用であった肝細胞癌自然退縮の一例

山田 哲¹⁾、柳沢 新¹⁾、黒住 昌弘¹⁾、平瀬 雄一¹⁾、藤永 康成¹⁾、上田 和彦¹⁾、角谷 眞澄¹⁾、
添田 純平²⁾、宮川 眞一²⁾、小林 実喜子³⁾、佐野 健司³⁾
信州大学 医学部 画像医学講座¹⁾、信州大学 医学部 外科学講座²⁾、
信州大学 医学部 病態解析診断学講座³⁾

展 示

P-10 経過中に自然縮小を認めた肝細胞癌の一例

村中 貴浩¹⁾、陣内 崇¹⁾、古賀 治幸¹⁾、藤本 正樹¹⁾、山田 浩己¹⁾、野口 浩司²⁾、真鍋 達也²⁾、
上田 祐滋²⁾
県立宮崎病院 放射線科¹⁾、県立宮崎病院 外科²⁾

P-11 予後不良であった神経内分泌癌を伴う肝細胞癌の1例

野畠 浩司¹⁾、角田 清志¹⁾、海東 恵子¹⁾、西嶋 博司²⁾、太田 英樹³⁾、清原 薫⁴⁾、寺畑 信太郎⁵⁾、
須藤 嘉子⁵⁾
市立砺波総合病院 放射線科¹⁾、市立砺波総合病院 放射線治療科²⁾、市立砺波総合病院 消化器科³⁾、
市立砺波総合病院 外科⁴⁾、市立砺波総合病院 臨床病理科⁵⁾

P-12 非特異的な画像所見を呈した肝内胆管細胞癌の1例

高屋 麻美子¹⁾、松永 敬二¹⁾、ウッドハムス 玲子¹⁾、柿田 聡子¹⁾、浅野 雄二¹⁾、瀧川 政和²⁾、
西巻 博¹⁾、菅 信一¹⁾、早川 和重¹⁾
北里大学医学部放射線科学¹⁾、独)国立病院機構 相模原病院²⁾

P-13 再発急性骨髄性白血病肝浸潤の一例

長谷川 悠¹⁾、作原 祐介¹⁾、加藤 扶美¹⁾、藤間 憲幸¹⁾、阿保 大介¹⁾、白土 博樹¹⁾、清水 匡²⁾、
久保田 佳奈子³⁾、伊藤 智雄³⁾
北海道大学 医学部 放射線医学講座¹⁾、北海道大学 医学部 保健学科²⁾、北海道大学病院 病理部³⁾

P-14 多発肝腫瘍像を呈した多発性骨髄腫の一例

川田 秀一¹⁾、山下 智裕¹⁾、桜田 愛音¹⁾、小泉 淳¹⁾、今井 裕¹⁾、平林 健一²⁾、中村 直哉²⁾、
長村 義之²⁾、小川 吉明³⁾、安藤 潔³⁾
東海大学 医学部 基盤診療学系 画像診断学¹⁾、東海大学 医学部 基盤診療学系 病理診断学²⁾、
東海大学 医学部 内科学系 血液腫瘍内科学³⁾

P-15 多発肝腫瘍で発見された悪性リンパ腫の一例

伊東 伸剛¹⁾、大川 伸一¹⁾、前沢 寧²⁾、熊木 伸枝³⁾、栗林 幸夫⁴⁾、
神奈川県厚生連 伊勢原協同病院 放射線科¹⁾、神奈川県厚生連 伊勢原協同病院 消化器科²⁾、
神奈川県厚生連 伊勢原協同病院 検査科³⁾、慶應義塾大学 医学部 放射線診断科⁴⁾

脾臓

P-16 再生不良性貧血のダナゾール治療中に発症した脾臓 peliosis の一例

國松 奈津子¹⁾、赤羽 正章¹⁾、加藤 伸之¹⁾、稲生 信一¹⁾、小松 秀平¹⁾、渡谷 岳行¹⁾、前田 恵理子¹⁾、
雨宮 史織¹⁾、大友 邦¹⁾、宇於崎 宏²⁾
東京大学 医学部 放射線科¹⁾、東京大学 医学部 病理科²⁾

P-17 脾炎症性偽腫瘍の1例

松田 出¹⁾、風岡 純一¹⁾、赤井 宏行¹⁾、後藤 典子¹⁾、白水 一郎¹⁾、野田 正信¹⁾、町田 徹¹⁾
NTT 東日本関東病院 放射線部¹⁾

胆道・胆嚢

P-18 胆道および十二指腸に生じたアミロイドーシスの1例

広川 侑奨¹⁾、磯田 裕義¹⁾、前谷 洋爾¹⁾、有蘭 茂樹¹⁾、富樫 かおり¹⁾、米田 俊貴²⁾、猪飼 伊和夫³⁾、
中嶋 安彬⁴⁾

京都大学 医学部 放射線診断科¹⁾、京都医療センター 消化器科²⁾、
京都大学 医学部 肝胆膵・移植外科³⁾、京都大学 医学部 病理部⁴⁾

P-19 肝被膜下血腫を呈した肝内胆管細胞癌の1例

中島 好晃¹⁾、岡田 宗正¹⁾、伊東 克能¹⁾、山砥 茂也¹⁾、田辺 昌寛¹⁾、古川 又一¹⁾、松永 尚文¹⁾、
倉光 達也²⁾、谷川 幸治³⁾、矢川 智仁³⁾、折田 雅彦⁴⁾、竹中 博昭⁴⁾、星井 嘉信⁵⁾

山口大学 医学部 放射線科¹⁾、光市立大和総合病院 放射線科²⁾、光市立光総合病院 消化器内科³⁾、
光市立光総合病院 外科⁴⁾、山口大学 医学部 第一病理学講座⁵⁾

P-20 粘液産生性肝内胆管癌の1例

田辺 昌寛¹⁾、伊東 克能¹⁾、清水 文め¹⁾、藤田 岳史¹⁾、松永 尚文¹⁾
山口大学 医学部 放射線科¹⁾

P-21 胆嚢管癌の3例

川原 清哉¹⁾、左合 直¹⁾、浜中 大三郎¹⁾、根来 慶春¹⁾、木下 一之¹⁾、山田 篤史¹⁾、里上 直衛¹⁾、
田中 文恵²⁾、土居 幸司²⁾、小西 二三男³⁾

福井赤十字病院 放射線部 放射線科¹⁾、福井赤十字病院 外科部²⁾、福井赤十字病院 病理部³⁾

P-22 非常に緩徐な発育を呈し精査にても診断に苦慮した胆嚢癌の一例

黒川 浩典¹⁾、藤島 護¹⁾、河原 道子¹⁾、松村 年久¹⁾、田中 弘教¹⁾、高田 理恵¹⁾
津山中央病院 放射線科¹⁾

膵臓

P-23 胆管拡張が目立った膵 IPMC の1例

杉浦 充¹⁾、荒島 陽子¹⁾、宮崎 知保子¹⁾、小川 弥生²⁾
市立札幌病院 画像診療科¹⁾、市立札幌病院 病理科²⁾

P-24 随伴所見のため術前診断に苦慮した膵 mucinous cystic neoplasm(MCN)の1例

長谷 聡一郎¹⁾、野呂 賢一²⁾、太田 和美³⁾、須崎 紀一³⁾、佐藤 修平⁴⁾、赤木 史郎⁴⁾、金澤 右⁴⁾、
田口 千蔵¹⁾

十全総合病院 放射線科¹⁾、十全総合病院 内科²⁾、十全総合病院 外科³⁾、
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 放射線医学⁴⁾

P-25 多発結節性病変として描出された自己免疫性膵炎の1例

東 龍太郎¹⁾、福倉 良彦¹⁾、中山 博史¹⁾、神山 拓郎¹⁾、馬ノ段 智一¹⁾、米山 知秀¹⁾、内匠 浩二¹⁾、
中條 政敬¹⁾

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 放射線診断治療学教室¹⁾

P-26 主膵管内真菌球の一例

岡田 博司¹⁾、廣橋 伸治²⁾、丸上 永晃³⁾、高濱 潤子³⁾、伊藤 高広³⁾、北野 悟³⁾、大倉 享¹⁾、
末吉 智¹⁾、居出 弘一¹⁾、岩崎 聖¹⁾、吉川 公彦³⁾
東大阪市立総合病院 放射線科¹⁾、大阪暁明館病院 放射線科²⁾、奈良県立医大 放射線科³⁾

P-27 膵の髄外性骨髄腫病変の画像所見

佐久間 光太郎¹⁾、吉田 敦子¹⁾、為田 忠信¹⁾、長谷川 靖¹⁾、宮崎 真¹⁾、本莊 浩¹⁾、橋本 直人¹⁾、
宍戸 文男¹⁾、鈴木 良磨²⁾、高橋 裕太²⁾、高木 忠之²⁾、日下部 崇³⁾、渡邊 一男³⁾
福島県立医科大学 放射線科¹⁾、福島県立医科大学 第二内科²⁾、福島県立医科大学 病理部³⁾

P-28 膵に発生した神経鞘腫の一例

北尾 梓¹⁾、日野 祐資¹⁾、荒川 文敬¹⁾、黒川 勝²⁾、長谷川 洋²⁾、前田 宜延³⁾
富山赤十字病院 放射線科¹⁾、富山赤十字病院 外科²⁾、富山赤十字病院 病理³⁾

P-29 退形成性膵管癌の1例

有川 俊二¹⁾、内田 政史¹⁾、小金丸 雅道¹⁾、甲斐田 勇人¹⁾、内山 大治¹⁾、吾妻 佐奈江¹⁾、
富田 直史¹⁾、魚住 淳¹⁾、早瀬 尚文¹⁾、岡部 義信²⁾、菅 偉哉²⁾、木下 壽文³⁾、内藤 嘉紀⁴⁾、
枝光 理⁵⁾
久留米大学 医学部 放射線医学教室¹⁾、内科学講座消化器部門²⁾、外科³⁾、病理⁴⁾、枝光クリニック⁵⁾

P-30 甲状腺腫術後26年目に発症した甲状腺濾胞癌膵転移の一例

鈴木 耕次郎¹⁾、伊藤 茂樹²⁾、澤木 明子¹⁾、岩野 信吾¹⁾、長縄 慎二¹⁾、阪井 満³⁾、竹田 伸³⁾、
長坂 徹郎⁴⁾
名古屋大学附属病院 放射線科¹⁾、名古屋大学 医学部 保健学科²⁾、名古屋大学附属病院 消化器外科³⁾、
名古屋大学附属病院 病理部⁴⁾

P-31 腎細胞癌（clear cell carcinoma）膵転移の1例

秋元 達也¹⁾、渡辺 佳明¹⁾、上島 巖¹⁾、田島 直¹⁾、高田 晃¹⁾、丹野 啓介¹⁾、松浦 克彦¹⁾、
田中 修¹⁾
自治医科大学 附属大宮医療センター 放射線科¹⁾

消化管・腸間膜・腹腔

P-32 高齢者に発症した胃軸捻転の一例

山岡 利成¹⁾、木戸 晶¹⁾、高橋 聖佳¹⁾、大津 修二¹⁾、西川 温博²⁾、野口 雅滋²⁾
京都桂病院 放射線科¹⁾、京都桂病院 消化器センター²⁾

P-33 門脈栓塞栓症を伴ったAFPおよびPIVKA-II産生腫瘍の一例

須山 淳平¹⁾、本田 実¹⁾、河原 正明¹⁾、扇谷 芳光¹⁾、清野 哲孝¹⁾、後閑 武彦¹⁾、馬場 俊之²⁾、
井廻 道夫²⁾、国村 利明³⁾、諸星 利男³⁾
昭和大学 医学部 放射線医学教室¹⁾、昭和大学 医学部 第二内科学教室²⁾、
昭和大学 医学部 第一病理学教室³⁾

P-34 幽門側胃切除 /Billroth II 法再建術後に内ヘルニアを来した一例

辻 聖佳¹⁾、山岡 利成¹⁾、木戸 晶¹⁾、上原 正弘²⁾、間中 大²⁾
 京都桂病院 放射線科¹⁾、京都桂病院 消化器センター 外科²⁾

P-35 腹腔内破裂で発症した胃粘膜下消化管間葉系腫瘍の一例

塩見 英佑¹⁾、小川 健二¹⁾、平田 愛¹⁾、上竹 亜記子¹⁾、上野 彰久¹⁾、管 重尚²⁾、東原 宣之²⁾、
 高橋 伸²⁾、山田 祥岳³⁾、増田 真木子³⁾、栗林 幸夫³⁾
 日本鋼管病院 放射線科¹⁾、日本鋼管病院 外科²⁾、慶應義塾大学病院 放射線診断科³⁾

P-36 十二指腸にみられた扁平上皮癌の1例

山元 龍哉¹⁾、杉本 英治¹⁾、今村 好章²⁾、河田 尚子³⁾、山口 直則⁴⁾
 自治医科大学 放射線医学教室¹⁾、福井大学医学部附属病院 病理部²⁾、舞鶴共済病院 検査科³⁾、
 綾部市民病院 検査科⁴⁾

P-37 術後10年で発症した腎細胞癌十二指腸転移の1例

伊崎 健太¹⁾、原田 文¹⁾、中西 加代¹⁾、渡辺 裕一¹⁾、北村 ゆり¹⁾、松本 真一¹⁾、足立 秀治¹⁾、
 小林 真一郎²⁾、川口 勝徳²⁾、原田 健一³⁾、埴岡 啓介⁴⁾
 兵庫県立成人病センター 放射線診断科¹⁾、兵庫県立成人病センター 外科²⁾、
 兵庫県立成人病センター 泌尿器科³⁾、兵庫県立成人病センター 検査部⁴⁾

P-38 Henoch-Schonlein purpura の2症例

西田 卓郎¹⁾、澤田 敏²⁾、富山 尚³⁾、中村 彰利⁴⁾
 関西医大 男山病院 放射線科¹⁾、関西医科大学 放射線科²⁾、関西医大 男山病院 内科³⁾、
 関西医大 男山病院 小児科⁴⁾

P-39 イレウス管が原因と考えられた腸重積症の2例

赤田 渉¹⁾、飯田 典子¹⁾、高橋 健¹⁾
 社会保険京都病院 放射線科¹⁾

P-40 虫垂内翻による ileocolic intussusception の1例

竹山 信之¹⁾、大淵 真男¹⁾、松井 青史¹⁾、木根淵 裕子¹⁾、石川 牧子¹⁾、北原 規¹⁾、田尻 琢磨²⁾、
 上道 治³⁾、松本 匡史³⁾、扇谷 芳光⁴⁾、後閑 武彦⁴⁾
 昭和大学 藤が丘病院 放射線科¹⁾、昭和大学 藤が丘病院 病理科²⁾、昭和大学 藤が丘病院 外科³⁾、
 昭和大学 医学部 放射線科⁴⁾

P-41 腹腔内膿瘍形成をともなった虫垂癌の1例

坂下 陽子¹⁾、金崎 周造¹⁾、浜中 恭代¹⁾、辻 雅衛²⁾、佐藤 文平²⁾、濱洲 晋也²⁾、瀬古 安由美³⁾
 康生会 武田病院 放射線科¹⁾、康生会 武田病院 外科²⁾、滋賀医科大学 放射線科³⁾

P-42 著明な粘液産生を認めた直腸腫瘍の1例

磯貝 純¹⁾、小林 泰之¹⁾、小野 宏晃²⁾、伊藤 雅史²⁾、前島 静顕²⁾
 蓮田病院 放射線科¹⁾、蓮田病院 外科²⁾

P-43 乳癌術後13年目に発見された乳癌腹膜播種の1例

柘植 裕介¹⁾、五島 聡¹⁾、近藤 浩史¹⁾、兼松 雅之²⁾
 岐阜大学医学部附属病院 放射線科¹⁾、岐阜大学医学部附属病院 放射線部²⁾

展 示

P-44 腹膜偽粘液腫の一例

小林 和夏¹⁾、長川 達哉¹⁾、須賀 俊博¹⁾、宮川 宏之¹⁾、平山 敦¹⁾、松永 隆裕¹⁾、岡村 圭也¹⁾、
大関 令奈¹⁾、長谷川 貴²⁾、村岡 俊二³⁾、後藤田 裕子³⁾、益子 博幸⁴⁾、川村 秀樹⁴⁾
札幌厚生病院 第2消化器科¹⁾、札幌厚生病院 放射線科²⁾、札幌厚生病院 臨床病理科³⁾、
札幌厚生病院 外科⁴⁾

P-45 腸間膜悪性リンパ腫の一例

斎藤 一浩¹⁾、加山 英夫¹⁾、松永 幸治²⁾、亀山 哲章²⁾、森脇 稔²⁾、光谷 俊幸³⁾
国際親善総合病院 放射線科¹⁾、国際親善総合病院 外科²⁾、国際親善総合病院 病理部³⁾

P-46 腹部臓器虚血で発症した腹部大動脈未分化内膜肉腫の一例

魚谷 健祐¹⁾、福田 哲也¹⁾、渡邊 嘉之¹⁾、河野 忠文¹⁾、神崎 歩¹⁾、東 将浩¹⁾、山田 直明¹⁾、
木村 晃二¹⁾、内藤 博昭¹⁾、中嶋 博之²⁾、池田 喜彦³⁾、植田 初江³⁾
国立循環器病センター 放射線診療部¹⁾、国立循環器病センター 心臓血管外科²⁾、
国立循環器病センター 病理部³⁾

腎臓

P-47 先天性中胚葉腎腫の一例

河原 正明¹⁾、後閑 武彦¹⁾、清野 哲孝¹⁾、扇谷 芳光¹⁾、土岐 彰²⁾、八塚 正四²⁾、鈴木 孝明²⁾、
諸星 利男³⁾、国村 利明³⁾、齋藤 光次³⁾
昭和大学 医学部 放射線科¹⁾、昭和大学 医学部 小児外科²⁾、昭和大学 医学部 第一病理学部³⁾

P-48 腎盂絨毛癌の一例

安藤 慎司¹⁾、北野 和美¹⁾、湯浅 貢司¹⁾、児玉 光史¹⁾、安井 清¹⁾
島根県立中央病院 放射線科¹⁾

泌尿器

P-49 腹痛により発見された遺残尿管芽異所性開口の一成人男性例

高橋 亜希¹⁾、廣橋 伸治²⁾、丸上 永晃³⁾、北野 悟³⁾、高濱 潤子³⁾、伊藤 高広³⁾、甲川 佳代子¹⁾、
吉村 佳子¹⁾、渡辺 秀次⁴⁾、堤 雅弘⁵⁾、吉川 公彦³⁾
済生会中和病院 放射線科¹⁾、大阪暁明館病院 放射線科²⁾、奈良医大 放射線科³⁾、
済生会中和病院 泌尿器科⁴⁾、済生会中和病院 臨床病理⁵⁾

P-50 右後主静脈遺残による下大静脈後尿管の一例

伊藤 雅人¹⁾、竹内 充¹⁾、岩田 宏満¹⁾、川口 毅恒¹⁾、中川 基生¹⁾、櫻井 圭太¹⁾、佐々木 繁¹⁾、
芝本 雄太¹⁾
名古屋市立大学 医学部 放射線医学教室¹⁾

P-51 膀胱に発生した botryoid type の横紋筋肉腫の1例

清水 大功¹⁾、小林 久人¹⁾、笠原 誓子¹⁾、古田 昭寛¹⁾、高橋 孝博¹⁾、芥田 敬三¹⁾、今井 剛²⁾、
西村 彩²⁾、雑賀 興慶³⁾
大津赤十字病院 放射線部¹⁾、大津赤十字病院 小児科²⁾、大津赤十字病院 病理³⁾

P-52 尿膜管憩室に合併した尿膜管癌の一例町田 治彦¹⁾、藤村 幹彦¹⁾、上野 恵子¹⁾、中沢 速和²⁾東京女子医大東医療センター 放射線科¹⁾、東京女子医大東医療センター 泌尿器科²⁾**P-53 女性尿道に発生した明細胞癌の一例**松崎 健司¹⁾、竹内 麻由美¹⁾、西谷 弘¹⁾、中達 弘能²⁾、米田 亜樹子³⁾、工藤 英治³⁾徳島大学 医学部 放射線科¹⁾、徳島大学 医学部 泌尿器科²⁾、徳島大学 医学部 人体病理³⁾**P-54 前立腺 cystic epithelial-stromal tumor とその再発巣の悪性転化の一例**荒木 哲朗¹⁾、桑原 雅知¹⁾、今岡 いずみ¹⁾、柳生 行伸¹⁾、下野 太郎¹⁾、熊野 正士¹⁾、香川 祐毅¹⁾、
清水 利栄¹⁾、葉 輝明¹⁾、任 誠雲¹⁾、坪山 尚寛¹⁾、米矢 吉宏¹⁾、岡田 真広¹⁾、小塚 健倫¹⁾、
土屋 典生¹⁾、足利 竜一郎¹⁾、細野 眞¹⁾、村上 卓道¹⁾、植村 天受²⁾、前西 修³⁾近畿大学 医学部 放射線医学教室 放射線診断学部門¹⁾、近畿大学 医学部 泌尿器科学教室²⁾、
近畿大学医学部附属病院 病理部³⁾

後腹膜

P-55 悪性リンパ腫との鑑別を要した Hyper IgG4 disease の一例尾西 由美子¹⁾、起塚 裕美¹⁾、戸上 勝仁³⁾、永井 謙一³⁾、今井 幸弘⁴⁾、増田 憲彦⁵⁾、小松 輝也⁶⁾、
杉村 和朗^{1, 2)}先端医療センター PET 診療部¹⁾、神戸大学医学部 大学院医学研究科 放射線医学分野²⁾、
神戸中央市民病院 血液内科³⁾、神戸中央市民病院 病理⁴⁾、神戸中央市民病院 泌尿器科⁵⁾、
神戸中央市民病院 呼吸器外科⁶⁾**P-56 腫瘤形成を示した後腹膜線維症の1例**小林 茂¹⁾、山元 龍哉¹⁾、近藤 義政²⁾、杉本 英治¹⁾自治医科大学 放射線科¹⁾、芳賀赤十字病院 泌尿器科²⁾**P-57 後腹膜に発生した Chronic Expanding Hematoma の1例**勝部 敬¹⁾、岡田 成人¹⁾、吉廻 毅¹⁾、和田 昭彦¹⁾、中村 恩¹⁾、林 貴史¹⁾、小山 新吾¹⁾、小林 愛¹⁾、
木谷 昭彦¹⁾、山口 峰一²⁾、石川 典由³⁾、北垣 一¹⁾島根大学 医学部 放射線科¹⁾、外科²⁾、病理部³⁾**P-58 後腹膜髄外形質細胞腫の一例**大森 智子¹⁾、瀧川 政和¹⁾、三富 弘之²⁾、磯部 義憲³⁾、北野 雅史¹⁾、早川 和重⁴⁾独立行政法人 国立病院機構 相模原病院 放射線科¹⁾、独立行政法人国立病院機構 相模原病院 病理²⁾、
独立行政法人 国立病院機構 東京医療センター 放射線科³⁾、北里大学医学部 放射線科⁴⁾

子宮

P-59 漿膜下子宮筋腫茎捻転の一例新城 秀典^{1, 2)}、扇谷 芳光¹⁾、清野 哲孝¹⁾、河原 正明¹⁾、西城 誠¹⁾、須山 淳平¹⁾、廣瀬 正典¹⁾、
後閑 武彦¹⁾昭和大学 医学部 放射線医学教室¹⁾、総合南東北病院²⁾

展 示

P-60 興味ある MRI 所見を呈した子宮体部漿液性腺癌の一例

小山 孝一¹⁾、本田 謙一²⁾、岡村 光英³⁾、小澤 望美³⁾、西田 典史¹⁾、瀬浦 宏崇¹⁾、濱澤 良将¹⁾、井上 佑一¹⁾
大阪市立大学 医学部 放射線科¹⁾、大阪市立大学 医学部 産婦人科²⁾、
済生会中津病院 PET センター³⁾

P-61 AFP 高値を示した肝様腺癌領域を伴う子宮癌肉腫の 1 例

高濱 潤子¹⁾、丸上 永晃¹⁾、武輪 恵¹⁾、伊藤 高広¹⁾、北野 悟¹⁾、廣橋 伸治²⁾、吉川 公彦¹⁾
奈良県立医科大学 放射線科¹⁾、大阪暁明館病院 放射線科²⁾

P-62 子宮癌肉腫の 3 例（拡散強調像を含めた MR 所見と病理の対比）

加藤 博基¹⁾、兼松 雅之¹⁾、古井 辰郎²⁾、廣瀬 善信³⁾
岐阜大学 放射線科¹⁾、岐阜大学 成育医療科・女性科²⁾、岐阜大学 病理部³⁾

P-63 子宮頸部原発の悪性黒色腫の一例

佐野 美香¹⁾、本杉 宇太郎¹⁾、市川 智章¹⁾、荒木 力¹⁾
山梨大学 医学部 放射線医学教室¹⁾

P-64 AFP 高値を呈した悪性ミューラー管混合腫瘍の 1 例

杉村 宏¹⁾、川崎 裕平¹⁾、田中 隆¹⁾、大塚 晃生²⁾、川口 日出樹²⁾、寺尾 公成²⁾、石原 明³⁾
宮崎県立延岡病院 放射線科¹⁾、宮崎県立延岡病院 産婦人科²⁾、宮崎県立延岡病院 臨床検査病理³⁾

P-65 胎児共存奇胎の 1 例

杉原 良¹⁾、藤井 正彦¹⁾、杉村 和朗¹⁾、森田 宏紀²⁾、丸尾 猛²⁾、藤本 昌代³⁾、鹿股 直樹³⁾
神戸大学医学部附属病院 放射線科¹⁾、神戸大学医学部附属病院 産婦人科²⁾、
神戸大学医学部附属病院 病理部³⁾

P-66 最終分娩から 8 年後に診断された胎盤ポリープの 1 例

三森 天人¹⁾、和田 裕子¹⁾、松原 伸一郎¹⁾、道家 哲哉¹⁾、山本 道教¹⁾、小高 晃嗣²⁾、赤松 信雄²⁾、
藤澤 真義³⁾、金澤 右⁴⁾
姫路赤十字病院 放射線科¹⁾、姫路赤十字病院 産婦人科²⁾、姫路赤十字病院 病理³⁾、
岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 放射線医学⁴⁾

卵巣

P-67 卵管捻転の一例

井本 勝治¹⁾、山崎 道夫¹⁾、坂本 力¹⁾、村上 陽子²⁾、田中 豊彦²⁾、邵 啓全²⁾、古川 顕²⁾、
村田 喜代史²⁾
公立甲賀病院 放射線科¹⁾、滋賀医科大学 放射線科²⁾

P-68 卵巣明細胞腺癌に腺線維腫を合併した 1 例

山口 健¹⁾、中園 貴彦¹⁾、工藤 祥¹⁾、安永 牧生²⁾、戸田 修二³⁾
佐賀大学 医学部 放射線科¹⁾、佐賀大学 医学部 産婦人科²⁾、佐賀大学 医学部 病理部³⁾

P-69 巨大粘液性嚢胞腺腫に合併した莢膜細胞腫の一例

安賀 文俊¹⁾、有本 博¹⁾、中村 嘉宏²⁾、寺井 義人³⁾、金村 昌徳³⁾、大道 正英³⁾
 北摂総合病院 放射線科¹⁾、北摂総合病院 産婦人科²⁾、大阪医科大学 婦人科・腫瘍科³⁾

P-70 病理検査科、卵巢混合胚細胞性腫瘍の一例

今井 詩乃¹⁾、井上 昭宏¹⁾、西原 正志¹⁾、牧角 健司¹⁾、梶原 哲郎¹⁾、荒木 保博²⁾、山崎 文朗³⁾
 佐賀県立病院好生館 放射線科¹⁾、佐賀県立病院好生館 産婦人科²⁾、佐賀県立病院好生館 病理³⁾

P-71 卵巢 Sertoli cell tumor の一例

西原 正志¹⁾、今井 詩乃¹⁾、井上 昭宏¹⁾、牧角 健司¹⁾、梶原 哲郎¹⁾、田中 智光²⁾、山崎 文朗³⁾
 佐賀県立病院好生館 放射線科¹⁾、佐賀県立病院好生館 産婦人科²⁾、佐賀県立病院好生館 病理³⁾

P-72 卵巢原発癌肉腫の1例

扇谷 芳光¹⁾、河原 正明¹⁾、須山 淳平¹⁾、清野 哲孝¹⁾、廣瀬 正典¹⁾、橋本 東児¹⁾、本田 実¹⁾、
 後閑 武彦¹⁾、奥田 剛²⁾、岡井 崇²⁾、九島 巳樹³⁾
 昭和大学 医学部 放射線医学教室¹⁾、昭和大学 医学部 産婦人科学教室²⁾、
 昭和大学病院 病院病理科³⁾

その他**P-73 捻転により急性腹症として発症した卵管平滑筋腫の一症例**

西原 礼介¹⁾、浦島 正喜¹⁾、松浦 明子¹⁾、中村 優子¹⁾、伊東 淳¹⁾、影本 正之¹⁾、辰本 幸子²⁾、
 高田 晋一³⁾
 広島市立 広島市民病院 放射線科¹⁾、広島市立 広島市民病院 産婦人科²⁾、
 広島市立 広島市民病院 病理部³⁾

クイズ展示

- Q-1 P L病院 放射線科¹⁾、P L病院 外科²⁾、P L病院 病理部³⁾
二ノ井 照久¹⁾、重岡 宏典²⁾、橋本 重夫³⁾
- Q-2 聖路加国際病院 放射線科¹⁾、聖路加国際病院 消化器・一般外科²⁾、
聖路加国際病院 病理診断科³⁾
石山 光富¹⁾、岡島 由佳¹⁾、本田 聡¹⁾、不破 相勲¹⁾、渡邊 文彦¹⁾、
住吉 辰朗²⁾、小野寺 久²⁾、土井 妃代³⁾、鈴木 高祐³⁾、齋田 幸久¹⁾
- Q-3 熊本地域医療センター 放射線科¹⁾、熊本地域医療センター 外科²⁾、
熊本大学 医学部 放射線診断学³⁾
田代 城主¹⁾、伊牟田 真功¹⁾、松川 哲也¹⁾、平島 浩太郎²⁾、沖野 哲也²⁾、
有田 哲正²⁾、八木 泰志²⁾、中山 善晴³⁾、山下 康行³⁾
- Q-4 済生会滋賀県病院 放射線科¹⁾、倉敷中央病院 放射線科²⁾、
済生会滋賀県病院 外科³⁾、済生会滋賀県病院 病理科⁴⁾
野崎 太希¹⁾、勝盛 哲也¹⁾、金 容香¹⁾、笠原 利之¹⁾、市橋 成夫²⁾、
松村 篤³⁾、増山 守³⁾、馬場 正道⁴⁾
- Q-5 長崎大学大学院 放射線診断治療学分野¹⁾、長崎大学大学院 移植・消化器外科²⁾、
長崎大学医学部・歯学部附属病院 病理部³⁾
井手口 怜子¹⁾、磯本 一郎¹⁾、芦澤 和人¹⁾、上谷 雅孝¹⁾、江口 晋²⁾、
兼松 隆之²⁾、安倍 邦子³⁾、林 徳真吉³⁾
- Q-6 東海大学 医学部 画像診断学¹⁾、東海大学 医学部 外科学²⁾、
東海大学 医学部 病理学³⁾、国立がんセンター中央病院 放射線診断部⁴⁾
岩田 美郎¹⁾、桜田 愛音⁴⁾、小林 真紀子¹⁾、斎藤 緑¹⁾、伊藤 功²⁾、
大谷 泰雄²⁾、中崎 久雄²⁾、佐藤 慎吉³⁾
- Q-7 慶應義塾大学 医学部 放射線診断科¹⁾、慶應義塾大学 医学部 病理診断部²⁾
大杉 圭¹⁾、新本 弘¹⁾、谷本 伸弘¹⁾、陣崎 雅弘¹⁾、杉浦 弘明¹⁾、
屋代 英樹¹⁾、栗林 幸夫¹⁾、三上 修治²⁾、向井 万起男²⁾
- Q-8 NTT 東日本札幌病院 放射線科¹⁾、NTT 東日本札幌病院 臨床検査科²⁾、
広村 忠雄¹⁾、佐藤 昌明²⁾
- Q-9 大阪市立大学医学部 放射線科¹⁾、大阪市立大学 医学部 産婦人科²⁾、
西田 典史¹⁾、徳永 正弘¹⁾、松井 広登¹⁾、中村 健治¹⁾、井上 佑一¹⁾、
角 俊幸²⁾、本田 謙一²⁾、石河 修²⁾
- Q-10 相澤病院 放射線科¹⁾、相澤病院 産婦人科²⁾、相澤病院 病理科³⁾
大彌 歩¹⁾、小口 和浩¹⁾、伊藤 敦子¹⁾、塩原 茂樹²⁾、樋口 佳代子³⁾

腹部放射線研究会

	会期／開催地	当番世話人	テーマ／演題数	講演・企画等
第1回	'90 10.3 秋田県	打田日出夫 (奈良医大)	肝・胆・膵 24題	—
第2回	'91 2.23 大阪府	永井 純 (自治医大)	泌尿器・生殖器 55題	慈恵医大 第二病理 藍澤茂雄先生 「腎の腫瘍性病変」
第3回	'91 11.13 兵庫県	黒田 知純 (大阪成C.)	肝・胆・膵 46題	大阪市大 第二病理 桜井幹己先生 「肝細胞癌の類似病変」
第4回	'92 2.29 東京都	平松 慶博 (東邦大)	泌尿器・生殖器 39題	京都大 病理学 山邊博彦先生 「睾丸及び卵巣腫瘍の外科病理学」
第5回	'92 11.6 東京都	平松 京一 (慶応大)	肝・胆・膵 42題	栃木がんC. 外科 尾形佳郎先生 「膵癌における術前画像診断の意義」
第6回	'93 2.27 東京都	宗近 宏次 (昭和大)	泌尿器・生殖器 48題	東海大 病理学2 長村義之先生 「副腎及び後腹膜疾患の病理」 *フィルムリーディングセッション
第7回	'93 11.17 山口県	板井 悠二 (筑波大)	肝・胆・膵 62題	癌研究所 病理 加藤洋先生 「膵腫瘍の病理」
第8回	'94 3.12 東京都	石川 徹 (聖マ医大)	泌尿器・生殖器 58題	昭和大学 放射線科 宗近宏次先生 「前立腺癌の画像診断と病理」 コメンテーター：慈恵医大 第二病理 藍澤茂雄先生
第9回	'95 5.12-13 石川県	松井 修 (金沢大)	総合テーマ 77題	金沢大学 病理学2 中沼安二先生 「肝血行異常の病理」 *フィルムリーディングセッション
第10回	'96 5.17-18 東京都	隈崎 達夫 (日本医大)	総合テーマ 65題	K. Ivancev, MD, PhD, Malmoe Gneral Hsp. "Hepatic Tumor Blood Supply" パネルディスカッション「膵癌—その診断・治療戦略」
第11回	'97 5.9-10 大分県	森 宣 (大分医大)	総合テーマ 83題	大分医大 検査部 横山繁生先生 「子宮病変の病理」 コメンテーター 島根医大 杉村和朗先生 *フィルムインタープリテーションセッション
第12回	'98 6.12-13 大阪府	中村 仁信 (大阪大)	総合テーマ 80題	B. I. Choi, MD, Seoul National University "Liver Tumor:Recent Progress of US" パネルディスカッション「嚢胞性膵腫瘍の画像診断」 *フィルムカンファレンス（肝疾患）
第13回	'99 6.18-19 島根県	杉村 和朗 (島根医大)	総合テーマ 104題	特別企画 “前立腺癌：診断から治療まで” *フィルムリーディング “タイムショック”
第14回	'00 5.11-13 山梨県	荒木 力 (山梨医大)	総合テーマ 119題	順天堂大学 第一病理学 須田耕一先生 「膵臓疾患の病理」 *フィルムリーディングセッション
第15回	01 6.1-2 兵庫県	中尾 宣夫 (兵庫医大)	総合テーマ 130題	久留米大学 病理学教室 神代正道先生 「早期肝細胞癌の病理診断をめぐる問題点」 *パネルセッション
第16回	02 5.31-6.1 大阪府	富樫かおり (京都大)	総合テーマ 131題	国立京都病院 放射線科 伊藤 剛先生 「婦人科疾患の肉眼病理」 *フィルムリーディングセッション
第17回	03 5.30-31 東京都	大友 邦 (東京大)	総合テーマ 139題	東京大学女性外科中川俊介先生「婦人科悪性腫瘍の治療における新しい指標」・東京大学 肝胆膵外科 國土 典宏先生「肝臓外科における術中超音波の進歩」 *パネルクイズセッション
第18回	04 5.28-29 長野県	角谷 眞澄 (信州大)	総合テーマ 164題	信州大学産婦人科学 小西郁生先生 「子宮肉腫の術前診断」・奈良県立医科大学病理診断学 野々村昭孝先生「奇異なる肝腫瘍“血管筋脂肪腫”の臨床病理」 *パネルクイズセッション
第19回	05 6.3-4 熊本県	山下 康行 (熊本大)	総合テーマ 170題	Special Lectur Kyoung Sik Cho, M.D. & Byung Ihn Choi, M.D. 熊本大学 婦人科学分野 片淵 秀隆先生 「エニグマティックな婦人科疾患：子宮内膜症」 *パネルクイズセッション
第20回	06 5.26-27 東京都	今井 裕 (東海大)	総合テーマ 135題	坂元 亨宇先生 慶應義塾大学医学部 病理学教室「マクロを中心とした肝癌の進展様式」、諸星 利男先生 昭和大学医学部 第一病理学教室「膵嚢性病変の組織像」 *パネルクイズセッション

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

— 協賛社一覧 —

大塚製薬株式会社

コニカミノルタヘルスケア株式会社

株式会社コンベンションリンクージ

株式会社島津製作所

シーメンス旭メディテック株式会社

GE 横河メディカルシステム株式会社

東芝メディカルシステムズ株式会社

日本シエーリング株式会社

株式会社根本杏林堂

株式会社日立メディコ

フィリップスエレクトロニクスジャパンメディカルシステムズ株式会社

富士フイルムメディカル株式会社

株式会社メディコスヒラタ

ゴルフ大会のお知らせ

日 時：6月3日（日）7：40スタート（予定）

場 所：フェニックスカントリークラブ 〒880-0122 宮崎市塩路浜山3083 TEL: 0985-39-1301
（※園内シーガイアシャトルバスをご利用頂けます。）

料 金：1人 ¥23,170（プレーフィー：2007年2月現在）+コンペ参加費 ¥5,000

< お申込先 >

※お申込みの際は、氏名、連絡先（Tel, Fax, E-mailアドレス等）をご記入の上、下記までお申し込み頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。また、一緒にプレーされたい先生がいらっしゃいましたら、その旨もお書き添え頂ければ幸いです。ご不明な点等ございましたら下記までお問合せ頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

株式会社コンベンションリンケージ内 〒531-0072 大阪市北区豊崎3-19-3 PIAS TOWER 11F
TEL: 06-6377-2188 FAX: 06-6377-2075
E-mail: acar2007@secretariat.ne.jp

サッカー大会のお知らせ

日 時：6月1日(金)19：00～21：00（予定）

場 所：多目的屋外広場（イベントスクエア）

ワールドコンベンションセンターサミット（研究会会場）隣り

参 加 費：¥ 3,000（温泉“松泉宮”入浴料込み）

申込み先：宮崎大学医学部 病態解析医学講座 放射線医学分野 山口 健一郎

E-mail: jsar21@med.miyazaki-u.ac.jp

腹部放射線研究会

The Japanese Society of Abdominal Radiology (JSAR)

代表幹事 松 井 修（金沢大学）

副代表幹事 森 宣（大分大学）

顧 問 石川 徹（高津中央クリニック） 打田 日出夫（大塚会IVRセンター）
黒田 知純（大阪がん予防検診センター） 中尾 宣夫（兵庫医科大学）
平松 京一（水町MRクリニック）
平松 慶博（メディカルスキヤニング立川）
宗近 宏次（総合南東北病院）

幹 事 荒木 力（山梨大学） 大友 邦（東京大学）
角谷 眞澄（信州大学） 杉村 和朗（神戸大学）
富樫 かおり（京都大学） 中村 仁信（大阪大学）
山下 康行（熊本大学）

監 事 今井 裕（東海大学） 後閑 武彦（昭和大学）
（敬称略・五十音順）

事 務 局 山田 康成

大分大学医学部 腫瘍病態制御講座 放射線医学

〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘1-1

TEL. 097-586-5934（放射線科医局）

FAX. 097-586-0025

E-mail: JSAR@med.oita-u.ac.jp

会場案内図



◆ フェニックスシーガイアリゾートへのアクセス

宮崎空港 ～ シーガイア			
バス	32分	800円	
タクシー	20分	約4,500円	(中型の場合)
宮崎駅 ～ シーガイア			
バス	25分	470円	
タクシー	15分	約2,500円	(中型の場合)
宮崎港 ～ シーガイア			
バス	15分	300円	
タクシー	10分	約1,800円	(中型の場合)